

2 パブリックコメント、市民懇談会意見への対応

パブリックコメント及び市民懇談会でいただいた意見を参考に、計画案に意見を反映させながら見直しを行いました。

検討にあたっては、計画の該当箇所に意見を関連付けするため、分割して整理しました。その検討の結果については、以下の通り意見の大筋が見えるように6つに区分し、それぞれの全体に対する教育委員会の考えをまとめてお示しする形式とし、さらに必要なものについては個別に補足を加えました。

また、計画の具体的な記述の修正等に関する意見に対しては、個別にコメントへの対応を記載しました。

- ① 計画原案の記述の表現や記載内容に関するご意見への対応
- ② 計画策定プロセスや手順に関するご意見への対応
- ③ 「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」に関するご意見への対応
- ④ 本館の再構築に関するご意見への対応
- ⑤ 地域館の存続を求めるとご意見への対応
- ⑥ 現状の図書館の機能やサービスほかのご意見への対応

① 計画原案の記述の表現や掲載内容に関係するご意見への対応

計画原案の記述の表現や掲載内容に関し、たくさんのご意見をいただきました。修正して反映させたもの、今後の参考とさせていただくものなど、個々のパブリックコメント等に対し以下の通りの対応とさせていただきます。

項番	ご意見	コメントへの対応等
1	担い手の状況で、いくらかかっているか記載がない。TRCに委託している唐木田図書館についても記載すべきではないか。	担い手の状況の中に、窓口業務委託の状況について記載します。
2	常勤職員で司書資格を持っているのが、今は約5割であるのを5年間の間に常勤・再任用を含めて6割か7割という具体的な数値目標を掲げるべき。	司書資格を持つ職員の配置等については、今後別途検討していきます。
3	「7.市民からみた図書館」では図書館の認知度がパルテノンに次ぐとあるが実際にどれだけの多くに人がどの施設を利用しているかは利用状況である。市役所が1番で、2番目が図書館で、パルテノンはもう少し下である。パルテノンの方が上にあるみたいに書いてあり作為的であるので撤回してほしい。24年度の「公共施設の適正配置に関するアンケート」の公共施設の年間何回利用するかでは図書館が1位で、平成27年のアンケートでも1位である。利用についてはこのデータに置き換えてほしい。	認知度だけでなく、図書館の利用状況の高さのデータについても追加します。

4	<p>多摩市の図書館のよい所は、本が回転して貸出が順調に出ていることである。貸出は「図書館の設置及び望ましい基準」の中でも一番大切な基準になっており、そこに重点を置くことは今までの歴史の中で間違っていないと思うし自信をもってほしい。貸出が活発に行われているというのは、その中で育まれてきている市民の読書の層の厚さあると思う。それが4館減らしていった中で育った子どもたちがどういう環境の中で生きていくのかを想像していただきたい。ESDで持続可能な社会作りと言うが、その子たちが大人になった時の2050年はどういう大人になるのかを含めて検討してほしい。民主主義の根本は個人の尊厳であり、一人ひとりの子どもがちゃんと育ててほしいというのは親であれば市民の誰でもが思っていることである。やはり図書館は個人の読書を中心に考えるのが基本で、人と人をつなぐというのは市がやらなくても市民の中でコミュニティが活発になれば育まれていくものである。コミュニティの拠点を取られてしまうと市民は何もできなくなる。</p>	<p>貸出は図書館の基本的なサービスです。また、読書は個人の営みです。それを支える図書館として、展示、ビブリオバトルなど、図書館員からの本の紹介、利用者同士の本の紹介やつながりをコーディネートすることも図書館の機能の一つであると考えます。</p>
5	<p>20代の利用度が少ないということで対策はあるが分析はわからない。全体的に対策はあるが分析が少ない。</p>	<p>計画を進めていく中では、具体的に対策を行う前に、さらに分析をして実施していきます。</p>
6	<p>取り組み16について、市立の図書館と学校図書館のことを言及する意味がわからない。学校図書館は教育目的で機能も違うので、一緒のものとは考えられないことをはっきりと書いた方が誤解を招かなくてよい。学校図書館とのネットワークは学校教育の専門の図書館の重要性というのは書き込んでほしい。</p>	<p>学校図書館と市立図書館との連携も重要な視点と捉えていますが、この箇所での学校図書館への言及は必要ないので削除します。</p>
7	<p>人が本を手渡していくという、貸出そのものが大事な業務、本を紹介しながら貸出をしていく、というのが図書館員の基本だと思う。アルバイトでも何でもよいと思っているのであれば、それは違うと思う。</p>	<p>本の紹介は、様々な展示やブックリスト、書架の間で問い合わせに応じるフロアワーク、レファレンスなど、様々な手法や場面で行います。貸出の多い図書館では、貸出カウンターでの本</p>

		の紹介が難しいことが課題であると認識しています。
8	ボランティアの受け皿について。どういがあるのかが具体的でない。例えば本の修理の講座をやって、修理の方法を統一させて募集するなど。次の時でも良いので出してほしい。	ボランティアの受け皿としてどのような分野が適当か、今後検討します。
9	読書活動振興計画になっているが、内容は図書館のいわば基本的スタンスの変更計画である。	読書活動の振興とその土台となる図書館の抱える課題の解決に向けた計画と位置づけています。
10	読書活動振興計画という名前でこれが出てきたときに、とても違和感があり、文字活字文化を振興していくための重要な機関が図書館と公民館とっていて、既に施設があるのでそれを充実していくのが一番重要である。そのためにみんなで理解して共通に理解を進めていくためには、読書活動では弱い。これは図書館の振興計画であると一番基本のところに戻って、いろいろと進めていくことが良いと思う。やはりタイトル自体、誤解を招くタイトルではないかと思う。	読書活動の振興と図書館の抱える課題の解決に向けた計画と位置づけています。
11	議会の事業評価の「現状を存続していくことはもはや不可能である」について、括弧で引用しているが出典を明らかにしてほしい。	平成24年予算決算特別委員会事業評価シートからの引用です。
12	図書館はパブリックな図書、市民の有力な財産、知的財産として、それをどうやって展開していくかという非常に重要な役割を持っている。その点を「はじめに」では文言をソフトと書いてあるが、全体を読むと、老朽化と職員のことは良く書いてあるけども、ソフトの部分がもう少し、展開されてしかるべきではないのか。	「はじめに」における施設の部分についての記述について修正します。
13	この計画の目的は、期間が5年間ということで提示されていて期間を設定した以上は、図書館として自主的に、目標を掲げて、これは例えば3年以内にやりました、やりたいと思いますという文で書き方を反映してほしい。	個々の取り組みの中で、5年度の到達目標について掲げています。

14	<p>課題があるから、この読書活動振興計画を作るわけで、この計画書で 14 頁から多摩市立図書館の抱える課題が載っているが、建物の老朽化とか、人件費の問題とか振興計画とは直接関わりはないことである。だから、現状でもやれることで、職員の先細りは計画とは何にも関係ない。ICTの活用による情報提供は図書館だから現状でもやっていく問題である。書庫の問題に至っては、なおさら図書館自体の問題である。蔵書の適正管理も、これも関係ない。図書館の運営に対する指摘、これは議会が指摘したことだから受け止めてどう対処するかという問題はあると思う。課題の捕え方がきちっとしてないで、果たして計画がちゃんとできるのか。課題をきちんと捕らえてないから、内容が現状を認識、現状を認めるような内容になっている。</p>	<p>読書活動の面と図書館の運営の両面から課題を捉え、その対策としての取り組みを掲げるものです。</p>
15	<p>市議会の「7、図書館の運営に対する指摘」で「多摩市議会は、平成 23 年度決算における事務事業評価において『現状維持による図書館行政の発展向上』で i 頁下から 2 行目とちょっと意味合いが違うと捕らえる。ここは、考えにくい、だから改めなさいよと、いうことを言っているのだと思う。同じ意味合いではないと思う。</p>	<p>いずれの記述も事業評価における評価と事業に対する提案に記載されています。</p>
16	<p>だれのためにやるか、スローガンを出してそれに向かって行かないと枝葉のことに流れる。未来の子どもたちのために、教育のためにあるのではないか。</p>	<p>読書活動の振興と持続可能な図書館運営の改善は、今後の教育にとって必要なことです。</p>
17	<p>平成 23 年度にできた基本方針、運営方針は今もいきているはずで、運営方針に添って図書館内で実績をだしているということだが、なぜそれを公表しないのか、公表しないで実績がどうなっているか、人件費がどうなっているか、人件費が多くなって資料費が少なくなっているということも、そこに因果関係があるというのも疑問がある。そう問題も明らかにしてほしい。</p>	<p>図書館の運営については、毎年事業報告の中で実績を公表しています。人件費と資料費は、総体としての図書館費の問題であり、両者に直接の因果関係はありません。</p>

18	<p>基本のスタンスの見直しと、活動振興計画と図書館のあり方をきっちり分けて、整理したうえでドッキングすればいい。抱き合わせというわけで、しかも本末転倒になっている。図書館の基本的なインフラの計画があって、そしてソフト論として活動振興計画があるのが普通の組み立て論である。</p>	<p>インフラの部分については、この計画を受けて、新たな本館の構想の中で検討していきます。また、地域館の施設のあり方については、行動プログラムの更新の中でも検討していきます。</p>
19	<p>行動プログラムはプログラム、振興計画は振興計画、読書を振興させるために何をやらなければならないかが振興計画ではないか。</p>	<p>この計画では、読書活動の振興と図書館運営の改善に焦点を当てました。行動プログラムに関連する部分については、今後の行動プログラムの更新の中で検討していきます。</p>
20	<p>この読書活動振興計画は、変わってきた内容もずっと見ているが、読書活動の推進という計画書になっていない。</p>	<p>まずは図書館運営の課題を解決し、直近でできる範囲での読書活動の振興策を進めていきたいと考えています。</p>
21	<p>意見を述べる前に質問がたくさん出たのは、それだけの理由がある。この資料がいったい何を狙っているのか。庁内の策定委員会、委員長を図書館長がしているということだが、そこで何を目的にしているのか、ピントがずれているような書きかたになっている。</p>	<p>まずは図書館運営の課題を解決し、直近でできる範囲での読書活動の振興策を進めていきたいと考えています。</p>

22	<p>国の基準に達するのに、予算もよこさない。図書館は、それに達するにはこれだけ金がかかるということをお願いと思う。市議会なり何なりに、国にそういう問題点を指摘してもらうことのために、資料は役に立つと思う。図書館のコンピュータシステムを言ったり、資料のデジタル化を言ったり、国の基準に合わせてそうやらなければならないとすれば、とんでもないことである。現状ではできるはずがない。国がそういう法律を作って、言ってくるならば、それなりのことをしてくださいと、市議会から要求を出すための資料としては、図書館はこういう風にやっていく必要があるという資料をまとめる必要がある。それはそれで目的がある。</p>	<p>図書館の設置及び運営上の望ましい基準は、図書館サービスや運営における多摩市のバランスを見るために利用しているもので、国の基準に合わせることは目的ではありません。</p>
23	<p>この計画は図書を中心とした図書館のサービスの計画として策定されるのが望ましいとおもうので、やや読書にこだわり過ぎているという感じがあり、若干違和感が残る。</p>	<p>読書活動の面と図書館の運営の両面から課題を捉え、その対策としての取り組みを掲げるものです。</p>
24	<p>図等が白黒印刷をすることを想定しておらず、白黒印刷にすると見えにくい。</p>	<p>白黒印刷を想定して修正します。</p>
25	<p>図書館の再構築と、その他のものを別にしてほしい。レベルが違う。それを一緒にしてしまっているのでおかしい気がする。</p>	<p>本計画では、読書活動の面と図書館の運営の両面から課題を捉え、その対策としての取り組みを掲げました。今後本館の再構築や、子どもの読書活動推進計画など、様々な計画策定を検討する中で参考にさせていただきます。</p>
26	<p>職員の育成が間に合っていないという部分があるとすると、そのサービスラインをいきなり広げるのは難しいのではないかと。職員の意識改革、サービスを提供する専門性や市民と連携する職員を育成することと、サービスの提供のタイムスパンが合っていないと絵に描いた餅になってしまうのではないかと。</p>	<p>実施にあたっては、職員の職層ごとの役割の見直しや研修による育成などに優先的に取り組みます。また、年度ごとの事業計画では、手を広げすぎないように、必要なサービスを展開していきます。</p>

27	<p>一番大事なのはp.44 の本館の見直しだが、本館の見直しと図書館の再構築が始まってしまうとこの計画の取り組みを実施できるのか。計画に優先順位をつけてほしい。例えば、ホームページのレファレンスの利用実績が少ないのであればやめてしまう、切るものは切って集中したほうが良いと思う。10 年も前に登録したもののメンテナンスもされずに残っている状態で、直接掲載されている本にいけるものは少ないのではないか。多摩市の情報は多摩市のホームページを見れば大体答えが出てくるので、どうしても図書館が必要、図書館の本を見なければいけないというものだけ絞ってここに登録して、数を絞る、または思い切ってやめてしまうのが一つの手ではないか。</p>	<p>今後本館の再構築などのスケジュールが具体的にくなっていく中で、取り組みの優先順位を検討し、場合によっては選択的に取り組んでいきます。</p>
28	<p>評価指標の0~5 才の利用率について、51 ページの下の「0 才~5 才が 0 を下回る数字になっていて、これは本人が登録せず、ご両親といっしょに図書館に来るときに、家族のカードで借りる」という分析と矛盾ではないか。</p>	<p>巻末資料の分析について、根拠があいまいなので見直します。</p>
29	<p>現在実施している主なサービスのうち、利用者懇談会と TAMAICHI は今年度実施していないので、何年度実施、今年度未実施など書いてほしい。</p>	<p>実施年について記載します。</p>
30	<p>言葉の整理をしてほしい。中心館、本館、中央図書館はおそらく違うものだと思うが、混ざってしまっている。いきなり本館が中央図書館にすり替わってしまっている。</p>	<p>今後新たな本館の再構築をする中で、構想等の中で整理していきます。</p>
31	<p>環境認識の部分がやや弱い。「行動プログラム」は人口構成の変化により担税力のある人の減少の一方で維持コストが高まることに対する対応だと思うが、高齢者の時間消費なり生涯学習というニーズを考えたときに、今この全域サービスをどういうふうに捉えるのかという整備をしていかないと、どうしてもやはり地域館という問題が出てくると思う。環境認識についての書き込みがないと、打ち出そうとしていること、実際に実現しようとしていることの説得性がないのではないか。</p>	<p>急速に進む高齢化についての課題についても追記します。また、全域サービスのあり方については、新たな本館の基本構想の中でも検討します。</p>

32	<p>「読書活動振興計画」というタイトルなのに、そのほとんどにハード面の整備で地域館を廃止なり縮小なりと、タイトルと中身が全く矛盾しているのはおかしい。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
33	<p>この計画は民間の企業だと全然通用しない。羅列になっている。例えば現在の課題とっていくつか課題があるが、ただ羅列してあるだけであって、どれが重要でどれに優先順位があるかって全く分析していない。それをきちんと分析してほしい。もう一つは、それに対する対応策、例えばこの課題を解決するための複数の案をぜひ比較検討して欲しい。そしてその中に、現状の条件下でこの案が一番良いとか、条件が変わった、例えば違うところが出来て経費が安くなったからとか、前ダメだった案ができるかもしれないとか、そういう相対的な優先順位をつけた分析を全部計画書に載せる。これだと何にもない。羅列してじゃあ地域館を縮小して拠点館を少ししますという、それだけの話。それだけじゃなくて、例えば全部並列にした時はどういう条件下で出来るか出来ないか、あるいはもう一館増やす、あるいは一館で済む、中央図書館一個つくれば後は全部つぶしていまえば良いという案もできるかもしれない。そういう時にその案にどういうメリットがあるかという分析が全くなされていない。そういう複数の相対的な評価を盛り込んだ報告、計画を立てて欲しい。</p>	<p>計画策定にあたっての検討手法については、ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>

34	<p>「存続していくのはもはや不可能」とこの文章をここで使われているのはおかしい。行動プログラムを出すその2年前に、一般的に公共施設は縮小しないと大変かもしれないというのを総論的な形での報告を、いかにも4図書館は存続しますよという方針をうけて議会がこんな発言をしたかのように作為的であるので、削除してほしい。地域図書館存続を求める声がこの2年間大きく広がった。議会では地域図書館存続を求める陳情に対しては採択、または趣旨採択、趣旨採択でも地域図書館は存続させることが前提の上での趣旨採択がされている。今日の館長の説明の中では話があったが、文章の中には書かれていない。まさに現実廃止を前提とした文章の形となっているところに問題があると思う。</p>	<p>議会の評価については、課題を紹介するなかで触れているものですが、部分的な引用ではない形に改めます。</p>
35	<p>2015年に行われた「公共施設の見直しについてのワークショップ」において、地域図書館の存続・活用を望む意見が多く出された。この計画書にはまだ、上のワークショップでの意見が反映されていない。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
36	<p>今後5年間の計画であるが、5年間に具体的にどのような課題があり、費用対効果を総合的に勘案して具体的にどのようにするか記載がない。</p>	<p>課題については総体として捉えつつ、優先的に取り組んだ方がよいものから、取り組みとして掲げているものです。費用対効果についてはありませんが、主な取り組みについては到達目標を設定しています。</p>
37	<p>組織の図書館長、教育委員会等の役割・責任の所在の記載が欠如している。</p>	<p>本計画の検討体制については、今後巻末に記載します。</p>
38	<p>文書が総花的で具体的に読み取れない。</p>	<p>現状や課題を踏まえ、取り組みをまとめたものです。</p>
39	<p>色を付けるなら白黒印刷することを考慮してほしい。白黒印刷した時にわかりやすい色がある。</p>	<p>モノクロ印刷に対応するよう修正します。</p>

40	そもそも「多摩市読書活動振興計画」の目的は文字どおり読書活動の振興計画であって、図書館の再構築をこの振興計画のなかで扱うこと自体に無理がある。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
41	70 ページという量に圧倒される。構成について、同じようなことが何度も繰り返され煩雑である。	巻末の課題分析など、全体として見直します。
42	読書活動振興の意味がわかりにくかったが、図書館サービス充実計画という意味か。	団体貸出や読書経験を交換しあう催しなどにより、読書活動を振興する取り組みを考えています。
43	市議会の事業評価で「持続可能な図書館」とあるが、減らして持続とはどのように行うのかが、疑わしい。i ページ目に記載されている3つの段落でいえば、2段目からいきなり3段目が論述されているが、3段目に移る前に欠かしてはならない上記の分析がなされていない。そのため、62ページにもわたる「計画書」そのものが読書活動振興の「計画書」の体をなしておらず、ただただ財政健全化を理由にした地域館の縮小と廃止の方向を各所で述べるにとどまっている。しかも、2ページ目では、目的を表示しながら、不可解な記述がなされている。	地域館の廃止を方向付けると受け取られる記述については見直します。地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
44	振興計画の「はじめに」で h23 年度決算における市議会の事務事業評価で「図書館運営で現状を存続していくことはもはや不可能である。」と書かれているが、豊ヶ丘複合施設の存続の請願(h26)が採択されたことや、東寺方、唐木田図書館の存続誓願が趣旨採択されたことなど、市議会での地域図書館に対する考え方にも変化が出ていることが(案)では書かれていない。こうした状況の変化をきちんと(案)に取り入れ、計画の見直しを図るべき。	多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムのその後の経過についても追記します。

45	この計画書の (i) ページ目、「はじめに」の最終行に過去の h23 の市議会の事業評価からの引用がある。しかし、その後の状況の変化がこの計画書には十分に反映されていない。「状況の変化」というのは、例えば地域図書館・複合館の閉鎖計画に対しての強い市民からの反対である。	多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムのその後の経過についても、課題の項目で追記します。
46	この計画は・・・予定です。の部分全文読んでも字句に関して具体的な定義がないのでなにを言おうとしているか理解できない。作成者は少なくとも何を市民に訴えるかに関して文章作成術に関して技術向上を常日頃にいそしんでもらいたい。	記述について見直します。
47	H23 に策定した「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」を踏まえながらとあるが整合性がない。文章としては採用しているが、基本理念の異なる内容としか思われぬ。「基本方針・運営方針」の理念は、教育委員会が市長部局とは違った独自性を持って、図書館の運営を行ってきた結集であると思う。この理念に基づくなら iv ページの“計画の目標像”で述べられなくてはならないのは、“いつでも、どこでも、だれでも”の言葉である。その言葉がないのは、基本理念が覆されたとしか思えない。	現在も多摩市立図書館の基本方針・運営方針に基づいて運営していく方針です。本計画の取り組み等についても、その柱立てに沿って検討しています。
48	図で、「自ら考える」が 3 回も出てくるが 3 回も必要か。「自ら考える」の一番上の丸が少し欠けている。	自ら考え、それをコミュニケーションにより共有することで課題を解決し、心豊かな地域を育むことを表した図です。
49	i の最後の段落「しかし」からはその前の文章からの脈絡がなく「課題」の表現で振興を阻害する要因が述べられている。内容は後の中味で重複して出てくるのでいらぬ。“はじめに”で必要なのは、どういった必要性があって、どこからの要請で「計画」をつくることになったのか。どういった経過で、どこが策定したのかわかるようにすべき。策定委員会の構成メンバーの氏名と、役職等を表記すべき。	計画を策定する必要性は、これらの課題を基にしています。策定委員会のメンバーについては、巻末に表記します。

50	「現時点では、主に18歳以下を対象とするこの計画はさらに更新し、本計画との二本立てとしますが、将来的には、本計画との統合をめざします。」とあります。「第2次多摩市子どもの読書活動推進計画」は、実施期間は28年度まで二本立ての期間は一年とはいえ、この二つの計画の底に流れているものは全く違います。「子どもの読書活動推進計画」は地域館が廃止されることは全く予想だにしていなくて進行中の計画。「将来的には、統合をめざす」とは、誰がどのように決めたのか。	当面は二本立てとします。統合については、改めて検討します。
51	目次は一番最初の方がいい。	「はじめに」などの前提となる部分は、目次の前に配置した方が解りやすいという考えです。
52	Ⅱ 課題のところページがふられていない(13 ページ)	ページ番号を表記します。
53	巻末資料は二つあるので巻末資料1、巻末資料 2 とした方がわかりやすい。	巻末資料に番号を付与します。
54	目次の次のページは、ページが入っていないし、目次にも含まれていない。	目次の一部として全体構成を表したものです。
55	タイトルの後のカッコ書きの時期は、入っているものと入っていないものがある。全部に時期を入れてほしい。	策定期間等を追記します。
56	永山図書館の面積は、本文は約 1000 m ² 、表では 2039 m ² となっていてわかりにくい。注釈が必要。永山図書館のその他 1000 m ² で今より有効活用できるスペースはないのか。	建物の共用部分約 1,000 m ² を含むことについて注記を追加します。
57	表、開館時間について、当計画、多摩市の図書館、利用案内、多摩市便利な本を見ると月から金、平日、月火水金となっている。こういう表現はなるべく統一した方がよい。	今後は考慮して作成します。

58	表 3 はいつ現在か明記。非常勤一般職の換算計算をした期間を明記。多摩市の図書館平成 26 年度版によると平成 26 年 4 月 1 日現在になっているが、平成 27 年 4 月 1 日現在にできないか。(換算期間は平成 26 年度で)表 3 の合計に唐木田の人数を含んでいないのがわかりにくい。唐木田の 9 名をカッコ書きすると共に注釈を入れる。	唐木田図書館については、現状で実質9名の体制ですが、業務委託という性質上、市立図書館の人員としてはカウントしません。
59	利用した率が 67.9%となっているが、登録者の割合は 41.3%、貸出利用者の割合は 21.2%(多摩市の図書館 26 年度版)こちらの数字もせてほしい。	追記します。
60	・7市民から見た図書館→平成 24 年度「多摩市の公共施設の適正配置に関するアンケート」ではなくなってしまった場合市民生活に影響が出る施設として図書館は市役所に次いでダントツ 2 位。利用回数はダントツ 1 位。平成 27 年の「公共施設の見直しについてのアンケート」ではよく利用する施設として図書館がダントツ 1 位。それぞれパルテノン多摩を大きく引き離して利用頻度が高いことがわかる。そのことも追加すべきと思う。	追記します。
61	これまでの成果は、何を主張しているのか本文章からは読み取れない。具体的な文章の記載が皆無である。	これまでの成果の中から、主なものを取り上げて記述したものです。
62	実態の分析がないのに計画が書かれている。これでは理解ができない。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
63	平成 24 年 9 月に行われた決算審査の中で様々な課題が指摘されました。→市民の中では、どうだったか。行政や議会だけで、問題点を出しているのではないか。	行動プログラム策定後の議会への陳情や市長への要請などについても追記します。
64	p.45 も… 公共施設の多くが老朽化→図書館は古いものでも築 40 年は経過していない。鉄筋コンクリートの建物で、築 30 数年で老朽化とは理解できない。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動

		プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
65	項番 6 の今後の方向性で、ICT 技術という言葉はあるのか。	ICT で統一します。
66	5番目の項目の「今後の方向性」も、今後作られる計画に対してはぜひ行なっていただきたい。	今後はそのような取り組みを行うようにしていきます。
67	2つ目の段落の最後の行に、“これまでの貸し出し中心の図書館からの変化が求められています。”とある。「図書の貸し出し」は、図書館の基本的な機能の一つではないか？	貸出も基本的な機能のひとつですが、レファレンス機能の充実なども必要と考えます。
68	p.23 「とりまく状況や課題を踏まえた求められる取り組み」「貸出中心の図書館からの変化が求められ」とあるが、「図書の貸出」の根本部分が損なわれることになれば、取り組みの意味をなさない。	貸出も基本的な機能のひとつですが、レファレンス機能の充実なども必要と考えます。
69	Ⅲ取り組み。このページよりページ上の余白が大きくなっている。基本目標(1)だれもが使える図書館	統一します。
70	p.24 2 段落文中で、「(4)弾力的な管理運営」となっているが、間違い。	訂正します
71	取り組み 3 はどこの国を想定しているのか。	今後ニーズの把握からはじめます。
72	(30 ページ、31 ページ)においても「現在実施している主なサービス」に「第二次多摩市子どもの読書推進計画」との関わりがなんら記述されていなく、いきなり「課題」に「子ども読書活動推進計画」の課題が書かれているのは、なにを言おうとしているのか、全くわからない。	現在実施している主なサービスの欄に追記します。
73	現在継続実施しているものと、今年度行われぬものに分けてほしい。または、実施年、未実施年を書いてほしい。参加人数も入れると状況がよくわかる。	実施年を追記します。

74	<p>3 館体制で「地域課題解決型」の図書館を目指すことも書かれている。図書館は千差万別の個人の「課題解決」の手助けをするのが仕事。「個人」が基礎。読書、資料の活用で自立した市民が自主的に地域の課題に立ち向かうのであって、何かの「地域課題」を特化した活動に立ち入るのは、市民へのサービスの低下と考える。見直しを求める。</p>	<p>読書も課題解決も個人が基本だと思いますが、様々なワークショップ等での行政課題や地域の課題を知らない状況があります。その分野を現状より強めていくことで、個人をとりまく地域を良くしていく取り組みは必要と考えます。</p>
75	<p>最後から2行目、“これまでの貸し出しやリクエスト中心のサービスから、地域の課題解決や学習機会の提供などができるように、方向を修正していきます。”すべての利用者が課題解決型、学習機会提供型の図書館を第一に求めているのか？ そのような軌道修正を簡単にして良いのか？</p>	<p>蔵書や貸出等の基本を否定するものではなく、新たなサービスとして課題解決機能も必要と考えます。利用者の求めるものという視点では、様々なサービスのニーズがあると考えます。</p>
76	<p>計画書に挙げられているような、課題解決や学習機会のための利用は特にしていない。そのようなことが必要になった場合は多摩市の図書館も使うかもしれないが、東京都の、または大学などの図書館を利用することもできる。</p>	<p>より身近な公立図書館の機能として提供し、都立図書館などとも連携することが必要と考えます。</p>
77	<p>図書館分散化のために、一度の来館で必要な資料が得られず課題解決のために十分役割を果たせていないとあるが、必要資料は図書館相互のネットワークで手に入るものである。また、本館拠点館に集約したところですべて一度の来館で解決するとも思われない。そもそもそうした要望ほどの割合で発生しているのか。</p>	<p>参考図書など、調べ物に必要な資料が分散している実態があります。</p>
78	<p>「基本目標(3)市民や地域に役立つ図書館」について・課題として、「これまでの貸出やリクエスト中心のサービスから…方向を修正」とあるが、貸出とリクエストが図書館サービスの根幹であり、それが地域館の廃止で損なわれれば、「改悪」にならざるをえない。・読書活動振興のためのイベントも、いつでも利用できる地域の図書館の存在があつてのことであり、アクセスが不便になるのであれば、イベントの優先度は</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>

	低い。	
79	ビブリオバトルの参加人数を入れた方がいい。ビブリオバトルは観覧できるものも実施してほしい。	ビブリオバトルの実施の仕方等については、今後検討していきます。
80	取り組み 10 関連電子媒体への世の中の動向と多摩市での活用を具体的に記載すること	タイトル数が少なかったり、費用がまだまだかかることが課題ですが、来館しなくても一定期間利用する設定ができるなど、活用分野を含めて今後検討していきます。
81	取り組み 9 関連レファレンスをもっと広めてください。レファレンスという言葉が一般的ではないので、「質問コーナー」くらいにならないか。利用例をカウンターにも置くとよい。	分館でも広めるとともに、新たな本館でのより高度な取り組みについても検討していきます。
82	取り組み 9 地域課題解決の支援について レファレンス事例のデータベース化は、ここ数年更新されていない。使用されていないのなら廃止した方がいい。過去のレファレンス事例の見直しをしているのか。図書館のホームページを見れるくらいの人なら多摩市のホームページやグーグルなどでたいていのことは調べられる。	手間のわりに効果がでていないのか等も含めて検討します。
83	平成 26 年度実績 192 件。内訳は、平成 17 年受付 106 件、平成 18 年 46 件、平成 19 年 25 件、平成 20 年 2 件、平成 23 年 13 件。何回も指摘したが、今までできなかったことが今後できるか疑問。	手間のわりに効果がでていないのか等も含めて検討します。
84	取り組み 11 本館の機能強化 本格的にこの検討・建設がはじまるとここはかなり工数がとられる。ここに集中するために各項目に優先順位をつけてほしい。	まず基本構想からはじめますが、建設等のスケジュールが具体化する中で、体制など含め、優先順位をもって取り組みます。

85	<p>「方針転換」の理由に、施設老朽化や人件費の問題を挙げ、“財政負担が重くなる”“必要な維持管理ができなくなる”としているが、最も負担が重いのは本館であり、その維持の為に、まだ老朽化していない唐木田や聖ヶ丘を含めた地域館の閉鎖は納得できない。図書館年間費用約 6.4 億の 74%を占める人件費は、4 館閉鎖で約 1/3 の人員減となるが、本館のサービス充実の為に人員増は何人か。施設費や人件費など相殺すると、いくら節約になるのか等。財政面の説明が無い。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
86	<p>中央図書館という言葉が出てくる。本館と中央図書館の違いを説明してほしい。</p>	<p>多摩市の本館では調べ物機能や障がい者サービス、書庫などの機能が十分ではなく、他の分館と分散して機能しているため、中央図書館ほどの機能の集中と分館の支援ができていません</p>
87	<p>取り組み 13 職員体制の見直し パソコン文書作成、表作成の研修をしてほしい。</p>	<p>パソコンや表計算ソフトの研修は、市全体の研修計画の中で扱っています。</p>
88	<p>取り組み 17 関連本に鉛筆等で記載する利用者がいる。左記の利用者に対しては利用制限をすべきではないか。</p>	<p>返却時のチェックと、場合によっては弁償等の対応をしています。</p>
89	<p>専門性の維持確保について、縮小が前提の人事を考えればそのための教育などは無駄との考えになり、専門職として活動できない。</p>	<p>単に縮小ではなく、本館等に集中することで、専門性の育成がしやすくなるということは考えられます。</p>
90	<p>市民サービスには人手は必要。図書館運営費に人件費を盛り込むことが最適な事か？人件費が資料費を圧迫しているという見方は間違っている。私は学校図書館司書教諭の免許を 50 歳でとりましたが、今は大学の教職課程で取得する人が増えている。退職教員の活用をしたら、研修は少しですむし、ボランティアも増えるのではないか？</p>	<p>図書館運営の経験のある方々によるボランティア活動の分野等については、今後検討していきます。</p>

91	取り組み 12 関連蔵書の検索については、図書館に行かなくても現行の内容を更に改善して便利にすべき。たとえば蔵書棚のカラー写真で検索できるようにする。さらに曖昧検索ができるように。	書架の写真等からあたかもその館に行ったかのように本を探す機能はユニークだと思います。一度検討しましたが、現時点では現実的ではありません。
92	p.22 の 5 番目に関連して、43ページ目の取り組み15もぜひやってもらいたい。	職員の育成という意味も含めて、実施していきたいと考えています。
93	表の算出根拠がないし、意図的に 3 館構想に導こうとしている。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
94	(3) 年齢別で見た利用の状況利用者の比率、パーセント表示の方がわかりやすい。	パーセント表示に改めます。
95	この計画書の52ページ目の最後の文に「考える必要があります」とある。この計画書では、まだ「考えられて」いない。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。
96	「日本の図書館 統計と名簿 2014」はいつのデータか明記してほしい。	奉仕人口:2013 年 3 月 31 日現在 個人貸出数、予約件数:2013 年度 蔵書冊数:2014 年 3 月 31 日現在 資料費:2012 年度決算額
97	資料費、市民一人あたりの資料費の単位がない。	追記します。
98	このページ以降、下線が引かれている基準がわからない。p.58 平成 10 年、自動貸出装置の設置。p.60 平成 19 年、4 日目に下線なし。 p.62 図書館協議会に諮問。	自動貸出機については、この計画の取り組みとも関連します。P.60 については、4日目に下線を入れます。また、

		p.62 の図書館協議会への諮問の下線は削除します。
99	巻末資料 多摩市における中央図書館検討経過。こんなにページをさく必要があるか、平成 2 年の資料もある。	新たな本館再構築の必要性を説明する材料として掲載します。
100	平成 25 年 8 月多摩市図書館協議会の行動プログラム協議への意見書に関して、多摩市として検証しているので、何ができた何ができなかったかを記載してほしい。	この計画の策定という段階では、図書館協議会の過去の意見書については回答しません。
101	ii ページ下から 9 行目「この計画は、図書館として、読書活動を活発にする様々な取組み・・今後の読書活動の振興につなげるものです。」iii ページ下から 2 行目「この計画は『文字・活字文化振興法』に基づき、読書活動の振興を図るとともに、その土台となる図書館の運営の改善・・」これは、「文字・活字文化振興法」第 5 条に基づいて「多摩市読書活動振興計画を策定する」ことを明記している「多摩市読書活動振興計画策定委員会設置要綱」からの逸脱ではないか。「文字・活字文化振興法」では「文字・活字文化振興」を図書館による施策とは限定していない。地方自治体が取り組む場合に図書館施策に限定はされないのは当然で、読書活動振興の計画として考える範囲はもっと広くとらえるべき。	文字・活字文化振興法第 5 条には、「文字・活字文化の振興に関する施策を策定し」とあり、第 7 条で地域における文字・活字文化の振興について掲げる中で、公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずることとしています。本計画はその趣旨に沿ったものと考えます。
102	この計画案が「文字・活字文化振興法」を受けて提案されていると解釈されるのであれば、同法の「文字・活字文化」の定義、また同法の「文字・活字文化の振興」の方法を踏まえて「読書」を解釈する必要がある。	

103	<p>「読書は単なる個人の楽しみに留まらず・・・」「個人でただ読書をするだけでなく・・・」という表現は、あきらかに「読書」の目的、内容、方法について外から価値判断を持ち込むもので、恣意的、誘導的である。そして、ある種の読書活動を低く見下した表現で規定した上で、これに代わる「読書」として「地域課題の解決などにつながる社会的な営みに発展する可能性を持っています」ii ページ「・・・読書経験を共有することで、社会的な活動とする・・・」と説明があり、明らかに「読書」活動を一定の方向に誘導しようとするものではないか。</p>	<p>読書については、その前段で、本人の自主性に基づく個人的なものとしています。その経験を共有することを強いるものではありません。</p>
104	<p>「読書」理解、「読書」振興の考え方は「子どもの読書活動推進計画」に学ぶべき。「私たちの生活環境は、様々な面で複雑化しています。速いスピードで情報があふれる現代社会において自分で考え、判断し、主体的に生きてゆくためには、自分のペースで読み、感じ、想像し、考える読書経験が重要になります。」とあり、「自主性が尊重される」「読書」について、その目的やあり方には踏み込まず、「読書」の価値を指摘し推奨する考え方が表現されている。このような類似の計画があり、そこで練られたすぐれた考え方の真摯に学び、これを生かして計画を練るべきである。</p>	<p>本計画では、個人の自主的な読書やそのための基本的な資料提供についてこれまで通り尊重しながら、その読書経験を共有することや、レファレンスサービスなどを充実することを目指すものです。</p>
105	<p>調べものは、調べる人の主体性において展開されるべきで、図書館に期待するのはあくまで文献上の支えのみでよい。20年以上前になるが、多摩市内の図書館で所蔵していなく、都立図書館から取り寄せてもらったことがある。当時から、きちんとレファレンスサービスをしてくれて、ネットワークを生かして積極的に対応してくれた。国の図書館政策として「これからの図書館像」を掲げ「レファレンスサービス」が重要だと謳っているが、多摩市ではかつてからきちんと対応していたと思う。「課題解決型図書館」などという、図書館を利用する人々全体にとっては公平さを欠き、おせっかいなサービスを推奨する提案は多摩市は安易に受入れないでほしい。</p>	<p>レファレンスサービスの充実については、これまでも中央図書館に関する図書館協議会からの答申などでも言及されており、現状では調べ物用資料なども分散しており、改善に向けた検討が必要と認識しています。基本は利用者本人の要求にもとづくもので、図書館から特定の課題を押し付けるものではありません。</p>

106	計画では言及されていないが、関戸、永山図書館も地域図書館として静かに本を読める環境になるよう、整備が必要ではないか。	関戸、永山の両館は貸出利用者も閲覧室利用者も多く、静かな環境の整備は難しい状況です。
107	市議会の事業評価の指摘があるが、平成 23 年度の決算審査の時であり、現在がどうなのか市議会議員に聞いていただきたい。市民の声が大きく上がった後に選出された議員の方たちが同じことを考えているような書き方はやめて一番新しい意見を載せてほしい。	行動プログラム発表後の市民の声などの状況についても、課題表記のところに追記します。

② 計画策定プロセスや手順に関係するご意見への対応

本計画の策定プロセスにおける市民参画や決定時期、市民懇談会やパブリックコメント実施にあたっての周知方法などについても、市民委員を加えるべきではないか、検討期間を延長すべきではないかなど、多くのご意見をいただきました。また、計画原案については、公式ホームページに掲載すると共に、閲覧用として各図書館と多摩センター駅出張所、関戸公民館にそれぞれ1部置きましたが、十分に目を通すことができないとの声をいただき、事前申し込みのあった方には事前に郵送することとしました。

この計画を策定するにあたっては、図書館を事務局として庁内に策定委員会を設置し、検討しました。まず素案を作成し、図書館協議会で意見を求め、市民懇談会での意見聴取を行いました。それらの意見を反映しながら、検討期間を1年延長し、さらに図書館協議会で意見を求め、原案作成後には、市民懇談会とパブリックコメントという二つの手法で多くの意見をいただき、検討し、本計画に反映すべきものについては、修正や加筆を行いました。

本計画は、読書活動を活発にする様々な取り組みや、読書活動を支える土台となる図書館の運営の課題解決の取り組みにより、今後の読書活動の振興につなげ、図書館の運営の改善・向上を図るためのものです。本計画で本館の再構築の方針を明確に位置づけ、それを受けて、今後は本館の再構築に向けた基本構想の策定を予定しています。その中では、今回反映できなかった意見も参考にしていこうと考えます。

項番	ご意見	個別のコメントへの補足
1	「子どもの読書活動推進計画(第二次)」は市民も加わって計画を作ったので、この計画も計画を練る時に市民参加を考えるべきだった。	
2	実施した懇談会の内容について公表してほしい。教育委員会に報告する内容も公表してほしい。	公表します。教育委員会定例会への報告事項についても公表されます。
3	この計画の平成28年3月までに決定するのは乱暴であり、拙速。十分に慎重に検討すべき。	

4	<p>文科省や国が推奨してきた読書活動の計画は実際にやっているのは全国で 17 市町村くらいで、そこでの計画というのは、八王子市のように図書館が非常に少なく、厳しい状況の中で色々と取り組んで市民と相談しながら一緒に取り組んできているということである。一方で、多摩市は市内に 7 館あって、貸出も非常に伸びていてというのは今までの実績が功を奏している、職員の方の努力や市民のいろいろな取り組みを一緒になってやってくる中で築かれてきたものだと思うが、それがこの計画の中には出ていない。</p>	<p>様々な課題を踏まえ、多摩市にとって、読書活動の振興と図書館運営の改善が必要と認識し、取り組んだものです。</p>
5	<p>この計画には市民の意見が入っていない。計画を決める過程で市民委員会などを作らないと片手落ちだと思う。拙速に 3 月末に仕上げるのではなく、もう少し期間をとってやってほしい。自治基本条例から言っても、これは良くないと思う。</p>	
6	<p>読書活動振興計画と図書館の振興問題をプランニングするにしても、まず、別々に、市民の基本的なニーズや要求を踏まえ計画をきっちり作るべき。もっとより多くの市民が、地域で少子高齢化時代をどうやって生きていくかということで、毎日一生懸命生きている人達への意味を踏まえたところでの地域館のあり方を考え、そして、全市的に中央館を、どのようにこの時代にあったサービスするか。これは両方重要な課題である。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
7	<p>一応基本方針という、通常、運営方針があるが、多摩市のビジョンがはっきりしていない。今回の振興計画どう進めるかの大元があやふやな中で振興計画進めようとしても具体的にいい案が出てこないと思う。図書館のビジョンがきちっとあって、それをどう展開するために、施設をどう作ったらいいのかというふうになればいいと思う。松戸市は、まずソフトを考えて、もう 2 年以上整備計画をやっている。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
8	<p>全面的に見直していただきたい。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討しま</p>

		す。
9	図書館協議会の9月9日に第一回定例会の議論を全部見たが、そしてこの内容。全く反映してないわけではないが、図書館の本来のあり方などが、引き継がれていないと思った。専門家であるのだから尊重して考えていくというスタンスで対応していただきたいと思う。	
10	この振興計画は市民全体が主役になって、読書活動を盛んにして、人づくり、市民力、市民の力をつけて地域の課題解決に携われるような人達ができれば良いと思う。そうすると、市役所の関係部署も一緒になって動かなかつたら、この振興計画はうまく進まない。そういう意味での、関係部署のことは何も書いてない。だから、はじめにを読むと、なぜこの計画を作るのかがわからない。市民の方が見たら、市民になぜこの読書振興計画が必要なのか。この計画ができたなら、プラスになることがあるのか。図書館がどう変わるのか、ほとんど取り組みを見てると、現状やっていることである。新しい取り組むことは検討して、後半に取り組みがあるが、現状の認識を認めた内容である。そうすると、この振興計画は、もっとゆっくりやってもいいのではないかと思う。このまま出したら、他市も注目しているから、比べられると困るなど思っている。	
11	パブリックコメントや市民懇談会について広報に載せてホームページに載せただけでなく、もっと市民が意見を出しやすくするよう努力すべきだ。	今回は結果的に多くの意見をいただきましたが、今後の本館の基本構想などでは、より意見の出やすい市民参画の手法について検討していきます。
12	振興計画(原案)の貸出用がなく、本当に市民の声を聞く姿勢があるのか。	今後の本館の基本構想などで、参考にさせていただきます。
13	振興計画(原案)の貸出をやっていただきたい。	今後の本館の基本構想などで、参考にさせていただきます。
14	懇談会の時間設定が、土曜日の午後6時だと主婦は出にくい。もっとフレキシブルにしてほしい。	利用者懇談会などを今後開催するにあたり、参考に

		させていただきます。
15	読書活動振興計画で、市民懇談会をやりますから来てくださいと言って普通行くだろうか。中身は図書館基本方針の変更計画である。そういうことを隠して、困難があるならば、正面から市民に提起して一緒に考えて解決するというプロセスを経ないとうまくいかないし、プロセスを踏まないと結果いろいろ問題を残す。	市民参画の手法については、新たな本館の基本構想などで、工夫していきたいと考えます。
16	市長も熟議だと言っている、市民と徹底的に議論して計画を進めたいと言っている。5ヶ年計画で3月にはもう作り出すというのはおかしすぎる。しかるべく熟議というプロセスを経て読書活動振興計画と図書館振興計画とは別にそれぞれ作らないといけない。中央図書館でいろいろなニーズに合った改善をやるのは結構だが、それは地域図書館をつぶす理由にはまったくならない。	約2年間の検討の中で、市民参画の手法については課題が多く、今回多くの意見をいただきました。頂いた意見については真摯に受けとめ、反映できる点は計画に反映していきたいと考えます。
17	同じ役所の中で図書館や教育委員会は理念というか、どうあるべきかというところで、お金の問題から入ってはだめだと思う。お金を扱う財務の人とぶつけるなり、あるいは市民が入って市民が痛みを引き受けなければならないのだったら納得して引き受けるという形にすればいい。一度引っ込めて図書館がどうあるべきか、お金を問題にしないで、人員の問題は別にして、どうあるべきか、人間をどれだけ養成しなければいけないのか考えていただきたい。	読書活動振興計画に続き、新たな本館の基本構想を策定する中で、図書館のネットワーク全体がどうあるべきかについても検討します。
18	熟議をする上ではきちんと市民が納得できる、全市民がこれならこうだなあと思える、事実を明らかにしないとけない。賛成している人も反対している人も共通の土俵で論議できて、全国的に見て例えば豊ヶ丘というところはどうか、検証できるようなレポートなり研究をして提案してもらわないとだれも論議に参加できない。図書館の位置づけ、役割、それが他のところと比べてどうなのかを説明すれば議論はもっと前に進む。	議論するうえでの共通の土台を作るよう努めます。

19	<p>策定委員会の要綱を見ていると、この市民懇談会は要綱に基づいてやっていると思うが、いろいろな意見がでて、しかも案で出されているのとは違う意見が出されていて、そういう場合策定委員会としてはどういうプロセスで書き直すということがプログラムされているのか。館長は委員長であるのでそういうことができるのならば、是非やっていただきたい。</p>	<p>本計画に関連することについては、できるだけ反映します。</p>
20	<p>分散から集中へと7館ある中から3館になって、なぜそれで振興できるんだろうと、出席した大半の方が発言している。それで3月にできるのか。この計画が非常に問題があるということで、市民からいろいろな意見が出ていますれば、ぜひそれを取り上げてそれを広範なところで市民連絡会のようなもの、「子どもの読書推進計画」のときと同じ様に市民も入れて、計画を練り直すことをしないと、自治基本条例に違反するものができてくる。計画の基本というのが地域の課題を解決すると言いながら、後退するというような計画であり、地域に図書館がなくなり、貸出機を置いて、少し子どもの本と一般の本を置いて図書館じゃないものができるというのは、歴史的にみれば後退そのものでその様には絶対になってほしくない。</p>	
21	<p>この大事な、地域、子どもたち、誰でも読める図書その基本方針に前半で言っていることに反するようなことを、たかだかあと2ヶ月で決めるなんていうのは手続き的にだめである。だから少なくとも、決定は先延ばしにして欲しい。全面的に書き直し、書き直してもう1回広く市民に問いかけて市民に中身を知らせる、そういう機会を設けないとまさにファッションにつながる、市民自治基本条例に全く反する。</p>	
22	<p>策定委員会は公開になっていない。今回のように大きな問題は市民の協力がないと、まして振興計画は市民が主役だ。いろいろ意見が出ているので市民と一緒につくっていくというふうになっていくといいと思う。できたら策定委員会を公開して傍聴ができれば、自治基本条例が生きていくと思う。</p>	

23	表紙に12月24日に加筆修正について、40頁から41頁のマークのところを修正されたとあるが、どこをどう修正してその意味合いはどういう違いがあるのか、その点をまず簡潔に説明してほしい。	わかりにくい部分について、事務局として最小限の補足をしたものです。
24	手続きについて。たま広報に12月20号市民懇談会のことが載ったが、その前日公共施設の見直しプログラムのワークショップがあり、その時は図書館問題のワークショップだった。その時に、市民懇談会が明日広報に載ることを館長は言わなかった。翌日の広報を見てみんな知った。しかも配布された原案は、返してくださいと言われ、図書館に来たら1冊しか置いておらず、わずかな時間でパブリックコメントをやるというのは、はっきり言ってアリバイ作りと言わざるを得ない。	ワークショップ等での案内は不足していました。
25	この計画の策定委員会のあり方そのものが、疑問。本当ならば図書館が専門性を持った仕事をしていて、その専門性を発揮して、読書活動を振興していこうとするならば、もっと図書館が、ただの事務局とか責任者になるだけではなく、図書館の組織の中でまず、作ることをすべきではなかったかと思う。そのときには、市民の意見を聞くために、市民の代表なりをきちっと入れた策定委員会みたいなものを作って、やっていくべきではなかったのか。いろいろ意見があった。計画案をやり直していただきたい。	新たな本館の整備など、現段階でやるべきことをまとめた計画です。今後新たな本館の基本構想等を検討する中で、図書館の中での検討や市民意見の反映などを行っていきます。

26	<p>国の基準を達成するためにいろいろ挙げられているが、その項目を実現するためなのか。あるいは多摩市内部の現実の問題を解決するために、図書館としてそれを実現するために、このぐらいの予算がかかり、それを5ヶ年計画でどうやるか。そのために、統一するのか、分館を廃止していくのかという形で出してもらえれば、それに対しての意見が、パブリックコメントというのは具体的になってくる。それが混ざっている。現状でこれからの多摩市の税金などを維持するにはこれくらいかかる。そのためには、無理して、こう変更していきたいが、これを皆さんに納得してくださいという形で出さなければ、話にならない。その点を分けた資料を作って、それぞれについてパブリックコメントを求めるという形にしていきたいと思う。</p>	
27	<p>この地域図書館を廃止するという問題が出てきた中で、こういうことを決める上で図書館なり教育委員会は、どこまで自主性や権限を持ってやってきたのか。</p>	<p>多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの策定にあたっては、市長からの協議に対し、教育委員会として検討し、回答しています。</p>

28	<p>公共施設の費用が 90 億足りないということで、公共施設を縮減する行動プログラムができた中で、地域図書館の廃止が出てくる。それまでの図書館の基本方針は違った。それが大きく転換したのが、平成 26 年夏の教育委員会、その中で教育委員会が図書館に意見を出すようにと言った。図書館が図書館協議会などで検討して、地域図書館をなくすことと、廃止して集約しても良いと、両論併記を教育委員会に出した。ところが教育委員会では、両論併記では判断に困るから一本にしろと出されて、それを当時の館長がもう一度教育委員会に出したのが、廃止ということだった。議事録を見ると非常に自主的な判断はなく、上から地域図書館廃止ありきみたいなことで、降りてきたような印象を持っている。そういう中で、41 頁に本計画の方向性を行動プログラムに反映していくとある。自主的な権限があまりないように見える教育委員会なり図書館が、どういう形で行動プログラムの変更はこの計画を反映できるのか。この討論なりパブリックコメントが全部、空討議になってしまうと、市の側からは、意見を聞いた実績作りになる。変な構造が作られると、将来にとって、多摩市の市民参加や多摩市をみんなで良くしていこうということを考えるときに、非常に悪いことになってしまうのではないか。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
29	<p>よくパブリックコメントを受け止めてとあるが、受け止めて、分かりました、でもこの通りやるというのが、政府のやり方。散々意見を言った割に何も反映されてないのが多いがどうか。</p>	
30	<p>このような難しい資料をたくさん読まなくてはならないのでは、市民をどういうふうに巻き込みたいのかわからない。高齢化や子育てと身近なテーマであれば市民懇談会も利用者が集まると思うが、図書館側の運営については興味を持ってない。</p>	<p>今後の利用者懇談会などでは、参加しやすい身近なテーマの設定を考慮します。</p>
31	<p>計画の中身が読書活動の振興ということよりも、むしろ中身としては図書館の運営計画のようだ。変わるということの中身を広報に出すときも知らせてほしい。</p>	<p>どのような内容についての懇談会なのか、よりわかりやすい広報に努めます。</p>

32	<p>市民が身近に利用できる地域館や、活発な文庫活動により全国1位、2位の貸出があり、そうしてきたのは大きな成果だと思うので、それを後退させないような形にしてほしい。今までの歴史を踏まえてこれからを考えてほしい。図書館の規模もその必要性があつてできたのであるから、それが大きく変わるというときには相当の期間を取って計画を作してほしい。3月末に決まるのは納得がいかない、計画を練り直してほしい。</p>	
33	<p>広報でパブリックコメントの募集とこの懇談会について書かれていたが、中身は地域館の削減とか廃止とか非常に重要な中身を含んでいるのに、「多摩市読書活動振興計画」についての意見をいただく、というだけの広報だと、この非常に重要な部分を市民に伝えないままの形でコメントを集める形になってしまう。唐木田では存続に2,500名くらいの署名が集まったが、そういう人たちのところまでちゃんと届いているのか。あの広報だけでは届かないと思う。自分でプリントを作ったり電話をかけて呼びかけたが、届いていない人はたくさんいると思う。</p>	<p>今後このような懇談の場を設ける際には、わかりやすい内容としていきます。</p>
34	<p>3月に結論を出すというのはすごい急いでいる。意見を持ち帰ってまた協議をしたり意見交換をしたりすると思うが、この期間で結論を出すのは疑問に思う。もう少しゆとりを持って色んな地域で出た意見を深めて討議して欲しい。</p>	
35	<p>結論を出すのが早すぎるのではないか。市民懇談会の意見やパブリックコメントを求めて果たしてそれが本当に活かされるのか。意見を聞きただけでは困る。</p>	
36	<p>市長を呼んで話を聞いてもらったほうが良いのではないか。館長では立場上なかなか動けないところもあるから、そちらから攻めたほうが良いと思う。</p>	<p>市の内部で情報を共有します。</p>

37	<p>地域図書館の存続に関わる非常に重大な内容を含むにもかかわらず、そうした点がパブリックコメントを求める表題には現れておらず、一昨年12月や昨年2月の「唐木田図書館存続を求める請願」では併せて2400名の署名をされた方までこうした内容が届いているのか疑問に感じた。こうした施設の存続に関わる内容が利用者に分かるように表題や副題あるいは内容説明がされるよう周知できるような方策を考えるべきではないか。</p>	<p>懇談会については、内容の重要性に応じて周知期間や周知方法などを工夫するようにします。</p>
38	<p>縮小の理由を財政面からであったり、建物の老朽化であったりだが、図書館の在り方をまず考えることではないか。この間の存続を求める運動の署名や、懇談会などでのその声を、しっかり受け止めてください。</p>	
39	<p>1年毎に具体的目標と具体的方策を記載すべきである。また、1年毎に市民から選出した委員会を立ち上げ成果を検証すべきである。</p>	<p>今回の計画では前期と後期に分けて記載しています。1年ごとについては、毎年の事業計画としてまとめ、図書館協議会の中で達成状況について検証していただく予定です。</p>
40	<p>「読書活動振興計画」はこれらのパブコメや地域懇談会の結果、どのように反映されていくのか。3月決定とのことだが、はじめに決定ありきでは市のアリバイづくりであり、市への信頼関係は大きく後退するであろう。</p>	
41	<p>各懇談会で出された意見、要望をきちんと受け止めて討議してから結論を出してほしい。</p>	
42	<p>市民に広く知らせ、内容を充実させるために、3月決定を延期してください。</p>	

43	<p>今、必要なことは、「読書活動振興計画(原案)」ではなく、“多摩市立図書館の基本方針・運営方針”に基づく「多摩市立図書館事業計画」であると考えます。利用する市民の声を反映した図書館事業計画として練り直し、市民がこれまで利用してきた図書館網を後退させることなくむしろ発展させるべく「多摩市立図書館事業計画」として策定していただきたい。</p>	<p>図書館のサービスや運営についての長期計画は必要と考えます。当面は本館の再構築の基本構想に取り組みますが、今後の課題と捉えています。</p>
44	<p>財政や国の基準からでなく、利用者の側に立って、利用者が何を望んでいるかを考えるとアンケートの実施が必要だ。より利用しやすくするための提案、利用していない人はなぜ利用しないのか。市民の多様なニーズを素材として、行政・図書館と市民の双方向が可能になる。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。</p>
45	<p>読書活動の「振興計画」を立てるのであれば、図書館協議会に諮問し、答申を受けているものと思うのでその経過もまとめて記載すべき。</p>	<p>図書館協議会での意見具申を含め、検討経過については、最終的に巻末にまとめます。</p>
46	<p>市民不在の原案を白紙に戻し、市民懇談会のような良い試みを一步前へ進めること。</p>	<p>新たな本館についての基本構想等では、市民懇談会等について、早い段階からの意見反映の手法について検討します。</p>
47	<p>計画提案は、現状の詳細な分析に基づいて、複数の改良案を比較検討して、現時点の条件のもとでの最適案を選ぶべきである。この計画案は、比較検討が全く欠如しているので廃棄し、必要なら、全く新しく作製すべきである。</p>	
48	<p>「読書活動振興」と謳いながら、結論は、「図書館組織再編成」で、因果関係の対応が全くないだけでなく、むしろ、逆効果の結論になっているので廃棄し、必要なら、全く新しく作製すべきである。</p>	

49	自治基本条例を無視、または、軽視している。自治体の健全な発展に、行政と議会と市民は同等の寄与をしなければならない。この計画案は、図書館・複合館の存続についての議会の採択・趣旨採択の決議を全く無視している。同様に、1万5千筆におよぶ市民からの存続の陳情・要請も、無視している。廃棄し、必要なら、全く新しく作製すべきである。	
50	計画案再作成の要点 1. 現状分析に基づく課題は、ただ列挙するだけでなく、重要度・緊急度などを考慮し、優先順位をつける。2. 対策は、ひとつでなく、複数挙げ、それぞれについて、現在の様々な条件下で、効果・実行可能性を検討して、それを記録に残す。3. 自治基本条例に十分な考慮を払う。計画は、できたものを見せるのではなく、作る段階で、市民を入れる。	
51	市政は、住民の意思を尊重することにある。	
52	子どもの読書活動推進については、「第二次多摩市子どもの読書活動推進連絡会」が組織されていますが、「多摩市読書活動振興計画」策定中、この連絡会は昨年11月に開催されたきりで、その会議では、議題に上がらなかった。連絡会のなかの市民連絡会は、年4回開催されているが、「振興計画」策定の報告はあったものの、議題には上がらなかった。「子どもの読書活動の推進」にも大きく影響してくることについて、連絡会になんら意見や議論を求めることなく、原案に組み込むことに、大きな疑念を感じる。	本計画と子どもの読書活動推進計画は、当面は二本立てとします。統合については、改めて検討します。
53	問題点を整理してはっきりさせてから、意見を聞いてほしい。新たな本館と地域館の廃止を説明されたが、地域館を無くさない場合の案も含め、幾つかの案を出して欲しい。地域館の廃止を前提にした計画案は止めて欲しい。もし本館を作るために、地域館を廃止するのであれば、本末転倒になる。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。

54	平成 27 年 8 月 21 日策定委員会後修正の「振興計画(原案)」の 49 ページ「実施時期」の表や表の内容が 12 月 24 日時点の「振興計画(原案)」には記述がない。なぜないのか、記述を削除した経過を明らかにしてください。	
55	「計画(原案)」は 12 月 20 日にホームページにアップされ図書館にも配置されたが、インターネットを利用できない人は排除される。図書館には 1 部で、借りることはできない。計画原案にたどりつくまでにかかなりの努力が必要である。	今回は、申し込みのあった方には事前に送付しました。次回以降は閲覧期間を長くするなど考慮します。
56	今回のパブコメ募集について、市民懇談会を回数多く開き、そこでの発言もパブコメとして扱ったことはとても良かった。ただ、市民の意見を募集していることについての周知徹底は不十分であると感じる。もっとあらゆる手段で広報に努めるべきである。	
57	聖ヶ丘図書館での市民懇談会は、参加者が多く全員が意見を言える余裕がなかった。こういう時、司会者は「発言できなかった方は文書でパブコメを出してください」と最後に言うべきではなかったか。開催時間も夕方 6 時から出にくいという声もあった。市民の現実、声や願いをつかまないとせつかくの配慮も生きてこない。	今後このような場をもつ場合には配慮します。
58	パブコメは「単なるガス抜き」で形式的に市民の声を聞いただけで終わる事のないようしっかり生かしてほしい。	
59	読書振興計画の地域懇談会に申込み、原案が送られてきたのはその前日です。これはしっかり読んでこなくてもいいということ？という疑問が残った。当日の説明だけでは理解しきれない。	
60	市民に意見を求めるものとして市民に提案された原案だが、だれが作成し、市民に提示するまでの課程で、どのような訂正がなされてきたのか過程を明記して再度意見を求めてください。	

61	<p>原案策定過程に市民参加がされていない。子どもの読書活動推進計画の策定課程にならって市民による策定委員会を設置し、原案を作成しなおしてください。</p>	
62	<p>市民懇談会について市の広報に1回掲載して、HPに載せて、それで終わりというのは安易である。各図書館にも小さなコーナーは作ってはくれたが、聖ヶ丘図書館の場合は中へ入って探さなければわからなかった。聖ヶ丘図書館での市民懇談会の参加者がなぜ 30 人を超える比較的大勢になったのか、図書館関係者も市の企画課も考えてほしい。「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」が必死で知らせたからだと思わないか。本来、市民の声を聞きたいのは「行政」の方々のはずではないのか。</p>	

③ 「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」に関するご意見への対応

今回のパブリックコメント及び市民懇談会では、地域館の存続を求めるとご意見と関連して、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムについてのご意見も多くいただきました。本計画原案では、地域図書館についてその機能などについて触れながら、施設としての検討は今後行われる予定の行動プログラムの更新の中で行うこととしていました。それに対し、本計画と行動プログラム更新との前後関係や、地域館の廃止と他の施設との対比などについてのコメントもありました。

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」は、人口減少や急速な高齢化などの多摩市をとりまく状況を踏まえ、施設の建て替えなどの負担を先送りせず、新たなニーズにも対応できるようにするため、公共施設の見直しをするにあたっての方針を示したもので、今後市民と行政と一緒に考えながら更新していく予定です。本計画のパブリックコメントの中では、行動プログラムについての回答はできませんが、ご意見については市長部局とも共有し、今後の検討の参考とさせていただきます。

本館の再構築については、本計画を受けて基本構想を検討する予定です。またその中では、市立図書館全体のサービスネットワークの中での新たな本館機能を検討し、その中で地域図書館のあり方についても検討する予定です。

項番	ご意見	個別のコメントへの補足
1	「行動プログラム」でなぜ地域に密着している図書館がつぶすために狙われたか。「行動プログラム」では大規模公共施設の見直しは何もない。今後 10 年間でパルテノン多摩は赤字が 100 億を超えるかもしれないのに、図書館だけクローズアップして狙い撃ちというのは弱いものいじめである。	
2	利用状況の割合が出ているが、なくそうとしている地域図書館をトータルすると約 3 割。この貸出が一気になくなるときに、教育委員会は 30% の実績をクリアできるかという無理だと思う。東寺方図書館は 1 千 59 万円、4 人の嘱託職員で賄っていて、かたや唐木田は TRC に 3 千万円の費用をかけて 9 人体制でやっている。職員体制と経費を考えていくとまだまだ改善の余地は十分ある。4 館を一気になくす方向ではなく、現状のままをどうしたら維持できるかという知恵を職員から市民から意見を吸い上げて、その上でどうしても夕張のように財政破綻してしまうような時に市民にお願いするのが筋。多摩市は財政破綻に至っていないでこの 5 年 10 年は磐石である。地方消費税の交付金は 1 年間に 34 億入っている。お金が足りないという	<p> 税金について、市税である法人市民税の一部国税化などの状況もあり、地方消費税交付金で余裕の出る状況ではありません。また、福祉や医療の支出の右肩上がりの状況などを見ると、将来の負担を増やさない検討が必要です。 </p>

	のは多摩市政が市民の方を向いているとは言えない。教育長に持ち帰って再検討してほしい。	
3	「暫定活用も含めた施設の老朽化」の項目をはずしてほしい。東寺方図書館は昭和56年に開館したが、多摩市の公共施設の表を作成したら昭和40年代の施設が多くある。市役所の庁舎は昭和44年で、そこが存続なのにどうして東寺方図書館は老朽化で壊すのか納得がいかない。	
4	少なくとも4つの地域で、いろんな陳情や政策提案をして、多くの市民が声を上げてきたことについて、全体の経過で触れていない。いろいろ意見を述べてきているがそういう市民の意見をどう把握されているのか。議会は豊ヶ丘で言えば存続の陳情の採択をした。だから行動プログラムは必然的にそこから見直しであり、それを行政当局としてどう受け止めているか。市長の言い方、企画の言い方、教育委員会の言い方が違う。	
5	図書館は、市の施設といえ市民の施設であるから、図書館の再編成は、単に読書活動振興という範疇に収まらない問題。市長部局でずっと責任持って行動プログラムの話をしてきたが、教育委員会は経過の認識をしっかりといただきたい。	多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム策定後の経過については、課題の中に追記します。
6	読書振興計画ならば3館であろうと7館であろうと成立する話だからいいかもしれないが、3館か7館に関わる重要な問題を、教育委員会の責任で3月に決めるのはどうか。こちらだけ先にしてプログラムの方は後というのは、ここで言う中央館や拠点館や地域館がどういう扱いになるのか。	
7	7館体制というような地域に根ざした地域の図書館を、3館に減らして、駅前図書館にみんな切り替えていくのはおかしい。そうなる、果たしてここに書かれていることが、本当にできるのかどうかという甚だ疑問である。豊ヶ丘やいろんなところで様々な問題、起き上がっていることを真摯に受け止めない限り、こういうことは絵に描いたもちで、字面だけ追えば大変すばらしいが、けれども矛盾している。あるいは、逆行している。そういうことをやろうとしていること自体、非常に問題がある。最終的には、人件費の問題、老朽化の問題、いろいろ様々な抱えている問題、それらをサービスを向上させるためには、7館体制を3館体制にしていきたいと思いますというような、結局はそっちへ全部持っていき、非常に大きな問題がある。	

8	<p>市長は、今図書館については教育委員会の方で検討していると言いき、この計画ではプログラムに関連した検討は別なところでやりますと書いてある。責任持った体制の中で、まず図書館のあり方論をしっかりとやってほしい。市長は熟議と言っているし関係部局と市民と問題を整理してプランニングするべき。</p>	
9	<p>公共施設全体についての、多摩市が直面している問題を財政のプログラムとして説明しないとイケない。図書館だけ縮小したりコミュニティ施設は縮小したりしてもプランニングにはならないし、市民の理解を得られない。お金の問題はやはり市の存亡を含めて、市長部局を中心に優先順位をしっかりと決めてその中で、図書館について市民に分かって欲しいと言っているかないとイケない。</p>	
10	<p>市長が、どこかの懇談会で、パルテノン多摩はお金が掛かるが維持すると言われた。それはなぜか、理由のひとつとして、パルテノン多摩は文化施設で、文化的なことや教育的なことに対して、財政とは別にやると言っている。これは図書館も同じだと思う。</p>	
11	<p>地域課題の解決と言っているときに、地域館を廃止することということは、実態的に整合性があるのか。ソフトとハードとまことしやかに分けてるが、公共施設で、ソフトのないハードなんてない。公共施設はみんな制度的なバックグラウンドを含めて機能を持っていて、ソフトとハードで一体性を追求する活動である。箱だけ作ったり、機能だけ独自に生きている公共施設なんてあるのか。</p>	
12	<p>図について、これは当初の公共施設のプログラム、骨子案のときから出てきている考え方で、当初、議会の仕分けのところで議論もあったかもしれないが、市民と議会の、現時点における認識はどうなのかという経過的な認識が示されていない。企画部局は、議会の採択を尊重していると言うが教育委員会は、議会の採択を受け止めているとはとても思えない。議会に反映された市民の意見を踏まえてプランニングをしてほしい。</p>	
13	<p>市長部局は、平成28年度夏以降、秋くらいまでに当面の行動プログラムの見直しをしたいと言っているため、読書活動振興計画が3月ということはない。行動プログラムの重要な項目だから、教育委員会だけ3月と走っても結構だが、われわれは市長に対して抗議をする。</p>	

14	<p>市議会の平成 23 年の事業評価は地域図書館をなくせとは言っていないと思う。あの時はちょうど政権交代で、乱暴なところがあった。この仕分けの中で出てきたことであった。しかし、あれから 5 年経っていて、図書館問題、あるいは公共施設の問題について、議会の今の態度はどうかという公共施設の行動プログラムの見直しを、図書館の存続の陳情を豊ヶ丘は採択、他は趣旨採択したというのが今の議会の判断である。もし、前段で議会の評価を書くのだったら、1 万 5 千人の地域住民から陳情が出てそれを市議会は採択、趣旨採択したということを両論併記すべき。</p>	<p>多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム策定後の経過については、課題の中に追記します。</p>
15	<p>現状とは何か。よくみたら施設の老朽化と人件費で、施設の老朽化は図書館だけではなくてパルテノンはじめ全部の施設のメンテナンスをどうするかが大問題で、図書館だけ切り離して施設老朽化だから地域館をつぶしますよというのは政策論としてあり得ない。それから図書館の人員確保をきちんとすればできないわけではない。</p>	<p>人員体制について、職層ごとの役割の明確化や館ごとの配置など、今後検討していきます。</p>
16	<p>今回の振興計画は、行動プログラムで示されている 3 館集約を前提にしているが、行動プログラムは実施が最終的に決定されているものではない。なぜ、決まってもいない行動プログラムに沿った振興計画になっているのか。誰の判断、誰の指示で、そういう前提で計画を作ったのか。</p>	
17	<p>行動プログラムの中で、図書館が真っ先に狙われたことに対して疑問を持っている。コミュニティ施設のようなところは団体利用なのに対して、図書館は個人利用がメインである。そういう意味では政治力が一番弱いところが狙われたという印象を持って、疑問である。</p>	
18	<p>一番上は、施設が老朽化しているというだけで、ひじり館も老朽化しているようになっていて、図書館だけがなくなれば老朽化の問題が解決するとは思えない。どのような捕らえ方をされているのかよく分からないので、明確にしていきたいのと、コミュニティセンターで図書館だけがなくなったとしても運営していくお金はかかる。</p>	

19	この計画は振興だから読書サービスを図るのは図書館活動の一番根本の問題だと思うが、地図を見ると逆にサービスが低下するというのを明らかに認めている。私どもの地域でも、そういう問題を懸念して、署名活動をして、市長にも説明をもとめた。図書館を応援して署名活動をしたと思っていたが、そういう意見反映は、図書館長としてどういう風に受け止めているのか、非常に疑問に思う。	地域館の存続を考える中では、持続できる形で全域サービスをどう提供するかを考える必要があります。
20	コストを下げていくためにとか、サービスが27市の中で非常にレベルが高いから平均的なところまで下げるとか、リストラや施設を少なくするとか出ているが、行政のサービスというのは今まで計画にやられてきていて、必要だから作ってきたのだと思うので、いきなり合理化して果たしてこれからの多摩市を希望のあるまちにしていく計画なのかと思う。そういうやり方に対しては納得できない。いきなり飛びついて土地を交換するとかではなく、計画的に本館をつくってほしいし、それで早く計画してあと地域館はなくなりますよ、というふうなことにならないようにしてほしい。一定の期間で計画して、それを実施していける見通しを持って財政的にもやっていただきたいというふうに思う。	新たな本館の再構築にあたっては、建設や運営の財源などについて、計画的に進めます。
21	多摩市は不交付団体であり、赤字団体ではない。パルテノン多摩のように大きな施設も維持していけると市長も言っていた。図書館は図書館法に基づいて、憲法の下で民主主義を発展させていく拠点になる所で、子どもが育っていく人づくりの根幹になるところであり重要な教育機関である。それを縮小するというのは今の歴史的な観点から言うと逆行である。財政が非常に困難で仕方ないのであれば市民債という形でもやっていくとか、そこまでして守りきる問題だと思うので、地域館を縮小して本館をつくるという事はやめていただきたい。	
22	新たな本館の計画が出ているなら希望としてここに書いたらどうか。	新たな本館については、この計画を受けて、基本構想の策定に取り組む予定です。
23	豊ヶ丘の複合館の場合ははっきり廃止になり種地になると市長や企画の方が在籍する説明会で聞いた。そのところの事実を認識してもらいたい。	

24	<p>本館をもっときちっとしたものに再構築するのはわかる。分析の課題として書かれているように、中央館がないだけに資料が分散してしまっていると思う。それはわかるのだが、この図の中に曖昧なまま拠点館を補完という形で図が載ってしまうと、全然見えないところで動いていってしまう、4つの地域館をどうするか何もわからないままこれが一人歩きしてしまう可能性があるのでは。行動プログラムに反映させますと書いてあるので、今後これがとても怖い、わからないままこの図が載ってしまって良いのかと思う。本館に関しても今揺れ動いているところなので、非常に曖昧なままイメージだけが先行してしまうのはどうなのか。</p>	
25	<p>唐木田図書館できてからまだ何年も経ってなく、必要性があったからつくられた。やめた時にここを空っぽにして何にするのか。多摩センターの駅前につくるというが、土地代が高く、借り入れの費用がかかる。移転にかかる費用を考えたら、逆に今の状態を維持する、維持費の4,000万かかるのであれば人を少なくして運営するほうがずっとコスト的には良いと思う。かえって無駄なことをしている。一番もったいないのは、せっかくなかったここを廃墟にするのか。非常に無駄なことをしている。コストが多くかかるからやめると言って、より多くのコストがかかることをやっていると思う。朝令暮改の最たるものだ。</p>	
26	<p>「公共施設の見直し方針と行動プログラムの中に本計画の方向性を反映していきます」というふうに、少しだけにおわす形で行われているが、この計画を最初は決定ですよと言っていたのが、このように見直しの方向に大きく市民運動の中で状況が変化してきている。その変化してきている中だからこそ今図書館問題を今の状況のまま論じるのはやはり今後も大きく影響しかねない。だからこれを3月にまとめるというのは時期尚早ではないかと私は思う。</p>	
27	<p>公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新に本計画を反映させるとのことだが、この2年の経過が示しているのは、4地域館存続を望む市民の意向ではないか。図書館行政をあずかっている部署から「行動プログラム」を抜本的に見直し、4地域図書館を存続させるべきとの「計画」を発表し、市の「プログラム」に反映させてほしい。</p>	

28	既存の地域図書館を廃止する場合、廃止後の建物または跡地の活用はどのような想定なのか説明すべきだ。	
29	福祉サービス施設を設置し、図書館スペースは減らし、図書館の看板は外すとか声が聞かれる。たとえば地域包括センターを聖ヶ丘にもってくるのだったら、コミセン・図書館以外の場所を考えるべきだ。	
30	計画原案は3館集約を前提に書かれている。さらに最終的な実施が決まっていない「見直し方針と行動プログラム」を前提としているのに、なぜ前提としているか、どういう手続きで意思決定されたのか説明がない。	
31	見直し方針についてこの計画の作成者は、市民も市職員も信用していないから、市民・市職員が共同して計画を作りあげていこうとする姿勢がない。床面積を基準にしながら、床面積の多いパルテノン多摩と小学校・中学校を計画から除外している。ひじり館から聖ヶ丘図書館を排除しても床面積は減らない。公共施設の更新は多摩市だけでなく多くの自治体に共通する課題だ。自治体としての誇りを持ち、優良な行政サービスを保障していくのだという立場に立てば、国の財政制度・税制度の歪みが見えてくるはずだ。それが無いから、現行制度を絶対の前提として市民を言いくるめようとしている。	
32	「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の「地域図書館」の廃止方針に捻じ曲げられたままの今回の「多摩市読書活動振興計画」は認められない。	
33	全体を通して、この計画案は「新たな本館を建設し関戸・永山の拠点を加えた3館に図書館を集約して、聖ヶ丘図書館等の地域館4館を廃止する」という平成25年に市が出した「公共施設の見直し方針と行動プログラム」に添って立てられている。なぜ、多摩市民の「読書活動」に大きな影響を及ぼす図書館配置の問題を棚上げにし、まだ内容もはっきりしない『行動プログラム』の2年目の更新にお任せのまま、読書活動「振興」計画を策定できるのか。	

34	<p>この間、市民から多数寄せられた「地域館をなくさないで」という図書館配置についての要望を、関係者が本当に真摯に受け止めるならば、「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」の基本方針を踏まえるのであれば、この計画案の中に、地域館を残すようはっきり文面を入れ、市が検討中の「・・・行動プログラム」の更新に反映するべく「提言」すべきではないか。p. ivの「地域の『知る』を支援し・・・心豊かな地域を育みます」という「目標像」は絵に描いた餅なのかと不信感を覚える。</p>	
35	<p>地域館4館廃止あるいは縮小はやめてください。大規模施設であるパルテノン多摩の施設が重要な文化的施設であり、社会教育施設であるので何としても残す、と阿部市長は名言している。このことから、地域の4図書館が縮小や廃止される財政的理由は全く理由にならないことが証明されたと認識する。</p>	
36	<p>計画の目的は「公共施設としての図書館をとりまく環境の中で、読書活動を如何に振興するか」と読めるが、結論として示される方向は、行政計画である「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」で提示された「地域図書館4館の廃止と新たな本館&駅前拠点館への集約」とどう整合性を取るかに誘導している、或いは、無理やりリンクさせようとしているとしか読めない。</p>	
37	<p>市政の現状の変化から遊離している。図書館本館の移転先、パルテノン多摩の改修方法など、急速に変わる状況を考慮することなく、いたずらに、計画案だけ拙速に作ろうとしている。</p>	
38	<p>振興計画の「はじめに」で、図書館施設の面では数多くの老朽化する施設の更新や維持費の問題が、今まさに直面する課題と書かれているが、元々学校の校舎として建てられたものを暫定利用している本館を別とすれば、他の図書館は老朽化の問題は存在しないと考えます。図書館で最も古い東寺方図書館でも建築年は昭和56年で、設計上でもまだ利用可能な年数が残っているはず。ましてやこの唐木田図書館は平成23年の開館から5年もたっていない。維持するのに必要な経費が多大であるという指摘も、当たらないと考える。豊ヶ丘図書館1館の年間経費が2600万(h26/6/18 企画制作部行政管理課作成資料)であることを考えれば、4つの分館を合わせてもそれほど多大な年間経費ではないと考えられる。むしろ今後の</p>	

	改修が必要とされるパルテノン多摩の改修等の費用58億4千万+アルファ(数億から数十億円)の大きさに目を向けることが必要と考える。	
39	図書館の現状と課題をきちんと捉えていること、利用状況も分析していることは評価するが、「新たな本館」の中身や地域館のあり方が全く見えていない今、この計画の中に p.40 のようなイメージ図を入れることに懸念を抱いている。特に、「はじめに」の中で、「…別途「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の更新の中に反映させる予定です。」と書かれているが、それらがすべて曖昧なまま今策定することに危惧を感じている。「新たな本館」や地域館のあり方検討が先で、それらがもっと見える形になってから改めて検討すべき。この計画の策定は延ばすべき。	新たな本館については、この計画を受けて、基本構想の策定に取り組む予定です。この計画を受けて、今後基本構想策定に取り組めます。
40	11月12月に行われた「公共施設の見直しについてのワークショップ」で表明された学校法人の土地と本館の土地との一部交換について、その情報と取扱いについて明らかにしてください。	パブリックコメントへの回答とは別に検討し公表される予定です。
41	市民説明会で、今ある本館を桜美林と交換する話がされている。資産の交換をめぐって調査費が計上されたとも聞く。この話が進行すれば、西落合中学校の跡地は、桜美林に切り売りするも同然のことになる。学校跡地は、確かに「種地」。しかし、これを民間に売り渡してしまうことは、決して市民のための「種地」にはならない。多摩市にとって限られている市有地を、このような形で—(言いたくはないが、図書館整備のためだけのために)—切り売りするのは失政に等しい。学校跡地は、売却・切り売りするのではなく、医療・介護・福祉、スポーツ・芸術等の文化、商店や企業興しのための研究・研修などの施設地として活かしていただきたい。	本計画に盛り込む内容とは異なるものですので、ご意見として承り、今後に生かしてまいります。

42	<p>多摩市には、(A)パルテノン多摩と総合福祉館など2つの大規模施設、(B)各地域にある公共施設、(C)新庁舎建設などの問題を含め、それらの施設の維持管理に要する費用の課題があり、解決策を探っているはず。いま多摩市は、(A)(B)(C)の個々の問題を解決するために、地域にある公共施設を縮小・廃止することで課題解決にあたらうとする「行動プログラム」を推進しようとしているが、財政負担が全体からいえば僅かではない地域施設の縮小・廃止では財政的にも解決できない。この際、まとめて解決する方向として、新市庁舎と図書館本館をパルテノンに移し、パルテノン多摩を増改築して集約することを提案する。現在あるパルテノンの機能、1000席程度の大ホールと300席程度の小ホール等、最小限確保し、市役所機能と図書館本館機能を持たせる増改築は可能。そうすれば、3か所の建物の維持管理費を一本に絞ることが出来、財政的には将来性が持てる。またこの工事には、新市庁舎建設費の積立金、都市計画税の活用、市民の納得が得られるならば、現市庁舎の土地の売却費も加算できる。せめてこれぐらいの考えで臨むべき。30万都市の計画が、ほぼ15万都市に落ち着くと見込まれている時だけに、文字通り抜本的な多摩市の公共施設の未来像を探ってもらいたい。</p>	<p>本計画に盛り込む内容とは異なるものですので、ご意見として承り、今後に生かしてまいります。</p>
43	<p>平成25年8月多摩市図書館協議会の行動プログラム協議への意見書は、20年余りに渡り構築してきた多摩市の“だれもが使える図書館”計画の基本理念を一举に台無しにするものである。中央図書館の整備に重点を置くあまり、多摩市公共施設の見直し方針のもとで地域館4館廃止の方向性が打出されてしまった。</p>	
44	<p>平成25年8月多摩市図書館協議会の行動プログラム協議への回答についての意見この意見書は、20年余りに渡り構築してきた多摩市の「だれもが使える図書館」計画の基本理念を、一举に台無しにするものである。中央図書館の整備に重点を置くあまり、多摩市公共施設の見直し方針のもとで地域館廃止の方向性が打ち出されてしまっている。</p>	

45	・図書館協議会について先日、図書館協議会を傍聴したが、先の「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の「3 館集約・地域館廃止」に“有識者”のお墨付きを与えた事を委員の皆さんがどう考えているか聞いたかった。市民の声を検証し、2年前にこのような反対が起きるとは予測できなかったことを省みて、委員会からどんな提言をするかと期待したが、曖昧なまま閉会した。一見、計画案と直接関係ないようにみえるが、協議会ではこの「読書活動振興計画案」出される前に検討してきているのであり、おおいに関係があり、かつ責任もある。
----	--

④ 本館の再構築に関係するご意見への対応

本計画へのご意見の中には、本館の再構築に関して、地域館の廃止と組み合わせて行うことへの反対意見はありましたが、本館の再構築が必要との認識の意見が多かったものと受けとめています。

現在の本館は、やまばとホールと一体になっていた建物に耐震上の問題があったことから、平成20年に元中学校の校舎に最低限の改修を加えて、概ね10年間の期限で暫定活用しているもので、その期限も迫ってきています。十分とはいええない空調など、利用者にとっての利便性や快適性の意味でも、また業務を行う上で、諸室が細かく分断されている書庫やバックヤードの機能などについても、改善が必要な状況です。

本館の再構築については、本計画に引き続き、本館の再構築に向けて基本構想を検討する予定です。またその中では、市立図書館全体のサービスネットワークの中での新たな本館機能を検討し、その中で地域図書館のあり方についても検討する予定です。今回いただいたご意見については、今後の検討に生かしていきます。

項番	ご意見	個別のコメントへの補足
1	本館を中央図書館にしてほしい。課題解決型の行政支援をしてほしい。職員の定数が減らしてきている中で、図書館が上手に情報提供をし、行政支援をしていくことによって、図書館がある意味が、有益な何かを得られるような気がする。図書館が自分にとって役立つことを気づいてないかたも多いので、中央図書館にして、職員が集中することによるメリットをいくつか挙げてもらいたい。ノウハウのすごい方がいるのだから、後継者、若い人を育てていく上でも、中央図書館は大事だと思う。市庁舎の側に中央図書館をつくり、行政資料室をちゃんと入れてほしい。分かれていると両方に文書を置かないといけないし、レファレンスや情報の提供もうまくいかないような気がする。地理的に難しいのであれば、上手に機能するような工夫をしてもらいたい。	現在の本館は中央図書館としては機能の面でも不十分です。本館の再構築にあたっては、調べ物機能の集中と充実や、職員の育成、分館の支援などについても検討します。地域の課題についても、行政や市民が共有できるように検討していきます。
2	図書館協議会の答申にもあった、パルテノン多摩との連携について。パルテノン多摩は博物館機能や歴史ミュージアムがあり、そのようなところとの連携はすごく良いことだと思うが、全然この中には盛	新たな本館の用地については決まっていますが、図書館と博物館機能との連携についても、本館の基本構想等の中

	り込まれていない。	で検討します。
3	本館の補完としてというのが出てきたが、実際に学校法人の土地を売る売らないが射程に入っているし、本館の土地をどうするかということで本館の計画を考えなければならない。7館なのか地域館をなくすのかで本館の位置づけが変わるのであれば、それがどちらか決まっていなければ幅の広い対策をしてほしいし、その本館についていろいろ思いを持っている住民の意見が入るように策定委員会、検討委員会をオープンにして、ぜひ図書館のあり方についてこれだけでもめている訳だから、常にオープンにしていただきたい。	本館の再構築の基本構想を今後検討する中で、市立図書館全体のネットワークについても検討していきます。その際には、市民の意見をより反映できるように、議論のオープン化に努めます。
4	そもそも市民がどういうサービスを望んでいるかという視点での把握、利用者懇談会などのプロセスを今回の計画が踏んでいるかが見えない。全国の中央図書館は市民の声から中央館のコンセプトを作り、意見を踏まえた形で、市民活動で中心館なり中央館ができている流れがあるので、意見の吸い上げがないと、中心館ができると地域館がつぶれるといった話になりがちになると思う。弾力的に中心館の中身が変わってしまうのであれば、結局言葉だけの問題になってしまう。	新たな本館の基本構想を策定する中でニーズの把握に努め、市立図書館全体のネットワークについても検討します。
5	このページを見た限りでは、新たな本館に掲げていることは地域館だって全部やって良いことである。中央館とは何かがよく分かっていないのではないか。	新たな本館に必要な機能については、今後基本構想を策定する中で検討していきます。
6	自由に来て集まって調べられる空間や、これからはネットの時代なのでコンピュータとかもあれば若者が図書館に集まって来やすいのでは。	
7	中央館なり中心館の機能をしっかり持つこともサービスを高めていく意味では大事。今もすでに盛り込まれてはいるが、その点は大事にして計画として実現してほしい。	
8	中央図書館なり本館なりをつくることについては、財政の計画性も考えて、計画的にやってほしい。	

9	この文教都市の多摩市に何で魅力的な本当に行きたいと思うような図書館がないのか、その事に前から不満を持っていた。唐木田図書館が出来た時に何でこんな中途半端なものを今になってつくるのかと思った。多摩市にはこんな立派な図書館がある、他からも行きたいと思うようなそういうものをぜひつくるべき。あそこに行けば何でも調べられるよというそういうものをずっと期待していた。分散型は分散型の良さがあると思うが、もっと立派な中央図書館こそつくるべき。分散型だとほんの一握りの蔵書しか見られないが、それを中央に集めれば同じテーマでも色んな角度から資料を見ることが出来る。	
10	担当者の想いが伝わってこない。市民懇談会を中央館について熱を込めて伝える場にしても良いと思う。	
11	中央図書館は必要か否かの検討をすること。中央図書館は東京都立図書館で十分である。中央図書館の必要性があるとは思わない。	分館を支援する意味でも、地域の中心となる機能は必要です。
12	新たな本館イメージと巻末資料にある“中央図書館建設”という考えは、違うのか同じなのか。内容的にも理念的にも違っていると認識しているし、規模もイメージも大きく異なる。	新たな本館を今後基本構想の中で検討していきます。
13	中央図書館の機能がよく理解できない。そういう私も、中央館に何を求めるのか、よくわかっていない。	新たな本館を今後基本構想の中で検討していきます。
14	新しい本館の建設については、分散から集約への抱き合わせ論は市民懇談会に出席した市民の大部分が望んでいないことは解ったと思う。これまでの7館体制を維持することを前提に計画的に基金を用意し、予算も年次計画をはっきりさせて練ってください。その際、市民に計画段階から公開し、市民の意見を十分くみ取って計画に反映してください。	財政面も含めた図書館運営の長期計画については、今後の検討課題です。
15	新たな本館について新しい本館の設置場所は、多摩センター駅周辺(駅より5~6分以内)である	駅からの距離は別として、多摩センター地区を前提に検討

	べき。ただし、用地買収は可能か。	します。
16	今後本館を新たに作ることは有意義なことと考える。p40 に書かれている新たな本館についてもおおむね賛成。ただし現在の地域館を拠点館の補完とする案には賛成できない。図書館は子ども図書や行政資料を読むところだけでも新聞雑誌を読むサロンだけでもない。本館については用地の取得や施設の建築に新たに多大な経費がかかることが予想される。積立金の特別会計をくむなど計画的な検討が必要。	
17	本館が移る場合、各地域から図書館に行きやすくする。たとえば、図書館専用ミニバスの定時運行。または各図書館を経由する全市的なミニバス路線の活用。	本館構築時のミニバスの活用については、過去に図書館協議会からも提言されています。今後検討していきます。
18	中央図書館の場所だが、多摩センター地区にあるショッピングセンター内の家電販売店の後まだ入居決まっていなければ、どうか？ 当該店はあまりにショッピングセンターが多すぎて、活気が無いようにみえるので、公共施設を入れることにより、訪問者が増えると思うが。	商業施設と図書館との組み合わせは、図書館利用者にとっても、産業振興の視点でも、有効な手段だと考えます。ご意見として承ります。
19	本館は、落合地区の地域図書館機能も任いながら、他の地域館 6 館を支える体制を整えていく必要がある。現状の仮施設から本館にふさわしい図書館へと改築、または新築していくべき。また、本館の検討にあたっては、必ず、図書館のあり方について詳しい市民の中から選ばれた市民委員を、構成メンバーの半数以上にした本館建設検討委員会を設置し、市民参加でそのあり方の検討を進めるべきであることを提言してください。	本館の再構築については、この計画を受けて、基本構想の策定に着手します。市民の参加については、市民委員への委嘱とともに、より多くの声を反映できるように取り組みます。

⑤ 地域館の存続を求めらるご意見への対応

今回のパブリックコメント及び市民懇談会では、地域館の存続を求めらるご意見が多数を占めています。公共施設の更新については、全国的にも課題となっていますが、本計画では、多摩市にとっても大きな課題となっていることを踏まえながら、統計データなどで分析を加え、新たな本館の再構築と地域館のあり方について検討しましたが、この計画の枠組みの中では十分な検討には至りませんでした。

今後は、本計画に引き続き、本館の再構築に向けて基本構想を検討する予定です。その中では、市立図書館全体のサービスネットワークの中での新たな本館機能を検討し、その中で地域図書館のあり方についても検討する予定です。既設の地域図書館とのサービスの役割分担や運営についての見直しを図ること、従来の身近な図書館サービスの充実に加えて図書館ネットワークの中心的機能などを有する中央図書館機能を検討する中で必要であることについては、かつての第四次多摩市総合計画でも触れられているところです。

なお、公共施設のあり方については、平成27年12月に行われた公共施設の見直しについての市民ワークショップでも、居場所や相談、多世代交流などの視点も示されました。図書館機能も含めて、引き続き多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で検討します。

項番	ご意見	個別のコメントへの補足
1	多摩市が掲げているスマートウェルネスシティは、自分の足で図書館や市役所や郵便局など公共機関に行けることも含まれている。東寺方図書館が廃止されて関戸図書館に行くとなると、ちいさい子を一人で行かせるのも無理であるし、お年寄りも行けなくなると思う。この計画はスマートウェルネスシティに逆行している。	
2	本当に読書の振興を考えて計画してほしい。行動プログラムを前提に計画されている。この計画がどこを向いているかというところ、市民が本を読む、読みたいと思っている人がいる、この場所(東寺方図書館)を必要としている人の方を向いているのではなく、市の政策の方を向いていると感じる。	
3	地域図書館は、雑誌や新聞と児童書、それプラス蔵書を置くと言うが、子どもにとって児童書だけあればいいのではなく、児童書の先にこういう世界(東寺方図書館)があるからこそその図書館で、縮小された形でここが残るとしても図書館を奪われたと考える。	
4	地域図書館について策定委員会で検討し直して4館は残すという検討があったと思うのでとにかく書き直してほしい。	

5	評価指標で 0～5 才の利用率を 1.0 にしたいと数値目標があるが、東寺方図書館は下に児童館があり、子どもが利用するし絶好の施設だ。なくなったら目標値が下がる。	
6	東寺方は学校教育の中でも利用している。東寺方がなくなると関戸図書館に行かざるを得なくなり遠くなる。子どもに読書をといろいろ書いてあるが、基本的に振興になるのか。	
7	誰でもいつでもどこでもという形で、地域の図書館を大事にしていくという形であったが、分散から集中へと書いてあり、なくしていく方向になるので、地域館を大事にすることを出して、新しい多摩市独自の読書活動推進を提案してほしい。	
8	ハードについては行動プログラムの更新の中で反映すると言いながら、ソフトを検討していく中で明示されているのは、本館が大きく機能強化されて中心館になり、拠点館についても行動プログラムと同じである。分散から集中で、蔵書も職員も拠点館や本館に移すと集中の方向に方向づけされている。	
9	「地域館については図書館機能の全域サービスが担保できるよう・・・中略・・・柔軟な対応をしていく」とあるが、全域サービスを担保するためには東寺方図書館をなくさないのが唯一の方策である。	
10	図を見ると、はっきり 7 館であることが多摩市全体の人たちが喜ぶことだと思う。もし残すとしたらどうする方法があるのかを検討してほしい。	
11	利用度の分析は、分散してきたサービスを本館と拠点館に移すという方向は変わっていない。ハードについては検討しない書かないと言いながら書いてあり、その裏づけをもとにした文章は意図的である。	
12	全域をカバーしていく検討が必要ですよと書いているが p.46 の図では東寺方が薄くなっていて矛盾している。	
13	「小学校に通う児童は・・・中略・・・自宅に近い図書館を利用していることがわかります」とあるが、大事なことで、近くにあるから小さい子どもたちも行ける、年寄りも同じである。なくなって行けなくなったらみんな病気になる。つぶされたら年寄りは病気になって医療費があがっていいことがない。	
14	「高齢になって図書館に来られなくなる方々のニーズがないか考える必要がある」とあるが東寺方図書館がなくなったらどこに行くのか。3 館に集約してそこまで行けるのか。	

15	読書を振興していく中身ではないように感じる。いくらコミュニティ館などに補完するものを置いたとしても、なかなか今まで利用していた 30%の人達は今までどおり利用できないと思う。そういう意味では後退していく中身だと思う。	
16	この読書活動振興計画が 2 年かけてこういうふうに変えてきたという努力自体は敬意を表したいが、ここにきて、まだ 3 館体制でいこうというのが底辺に流れていると思う。これを読んで 3 館ではほんとに読書を振興していくことはできないとっていて、地域館をきちっと残していく姿勢というか、地域館の果たしてきた役割をきちっと守っていただきたい。守っていく姿勢でこの読書活動振興計画を立てていただきたい。10~15 万人規模の市で貸出が全国 2 位というのは、多摩市の図書館が地道に努力されてきたことだと思うので、行動プログラムのような案ではなくて、図書館のやってきた実績を元に地域館を残していく方向で、この読書活動振興計画を立てていただきたい。	
17	市の財政の厳しい中で、削減しても今まで以上のサービスを維持できるよう、地域館はどうなるかわからないが、変わった場合にはフォローできるようにしてほしい。開館時館の延長など、とにかく利用者にとって不便にならないよう、サービス低下にならないようなことを考えていただきたい。	
18	「拠点館を補完」というのが、さっぱり意味がわからない。	
19	地域館では子どもたちがおはなし会を楽しみに集まっています、そこにある本を見て借りていくので、そこから本を吸い上げて冊数を減らしてしまったら、これからの子ども達はどのようにして本を借りていくのか不安がある。中央館にたくさん資料を集めて一度に見られたら良いという話があったが、実際に中央館に行けるのはその地域の人だけではないかと思う。歩いて行ける距離にある図書館を、子どもや小さい子を持つお母さんは利用されるので、そういうことを考えていかないといけないと思う。	
20	高齢化で図書館への来館が減るので、コミュニティセンター、老人福祉館、児童館で予約・貸出ができるようにすると、そのような足が遠のいた人も利用できるのではないかと。そのようにして、利用が下がらないような工夫を最大限考えてほしい。	
21	「拠点館の補完」という言葉がわからない。使っている市民に向かっていない言葉ではないと思う。図書館もどうしていいかわからないからこういう言葉を使っているのか。	

22	地域の図書館で、今ある体制でやっていていただきたい。図書館のない地域を支えてきたのに、縮小してしまうとその地域がエアポケットになってしまう。p.46 の地図のように空白になるような状況にしないでいただきたい。	
23	人件費の比率が 80%から 75%が目標になっているが、地域館で複合館の場合は複合館の館長がいれば、図書館の館長はいらないのではないか。必要最小限の常勤職員がいて、あとはボランティアや嘱託職員で図書館司書を活かして人件費を削減することによって、なるべく今あるサービスを残せるような方法を考えてほしい。	
24	年齢別の利用について、児童が児童館やコミュニティセンターなど、貸出数が減らないような工夫をしてほしい。	市立図書館や学校図書館によるサービスに加え、団体貸出などによるサービス充実についても検討していきます。
25	地域に根ざした図書館を、少なくとも最低でいいから現状維持のまま保存して欲しいというのが、大多数の市民の声だと思う。今日もパブリックコメントということで、真摯にこれを聞いて、反映させていく努力を、職員の方々にぜひともお願いしたい。	
26	3館にするという根底で全部書かれている。要するに中央図書館を作って、関戸、永山の図書館、その 3 館に集中すること。それ以外の発想は何もない。	
27	駅前で大きな図書館ができて、誰でも行ったりきたりができるのはいいが、南野から赤ちゃんを抱っこしていけるのか。諏訪地域から、バス停まで遠くにあるところから、永山図書館まで赤ちゃんを抱いて、あるいは乳母車を押して、行かなければならない。そういうところに目がいてないということは国の中央図書館的な発想で、多摩市の中央図書館を作るというところにきている。地域の市民とともにやっていくという発想が薄いのではないか。図書館活動というのはとても重要で、市は上からの目線でなくて、弱い立場の人達、子どもであるとか子ども抱えてあるお母さんとかそういう人達が、喜んで、ああ良かったと思えるような目線で、もう一度読み直して欲しい。私は人件費がどうかかろうと、知的財産を増やすためならば、多摩市民としては、文句は言わない。	

28	中央図書館を建設すること、それから3館構想というところで、終始している。結局そこで終始しているという点で反対である。これは読書活動振興というよりも、聖ヶ丘図書館は地域館として、この計画の中であいまいになっているが、行動プログラムの中では廃止という方向で出されているわけだがそうするとむしろ、読書活動は減退というか停滞するしかない。	
29	お母さん方や子どもたち、そういう方への配慮はこの資料にあるが、私は障がい者で、遠くにはいけない。やはり近いところに図書館があるのは大事で、歩いて行けるとところに本がある、手に触れられる本があることが大事なので、なくさないでほしい。	
30	永山は、フリースペースに繋がっててコーヒーが飲めたり学習室を独自に作ったり、コーナー作ったりしていろいろなことやっている。しかし、高齢者のいる時間、女性の多い時間、子どもの多い時間、ちゃんとある種のすみわけ構造をやっている。世代的なニーズを反映した図書館で、地域は地域でまた違う。	
31	恒久施設としての本館整備と分館の集約化により、とはっきり書いていて、この時の行動プログラムそのものの考え方を前提にして書いてある。地域館を残すことに対して、曖昧なものである。	
32	「だれもが使える図書館」には、小さい子どもやお母さんの願いというのは「だれも」の中にはいってないのか。入っているのであれば字面としても違和感を覚えるタイトルだ。	
33	近くにあるコミュニティセンターの図書コーナーで3年近くボランティアをしている立場から言わせてもらおうと、コミュニティセンターの図書コーナーは絶対に図書館の代わりにはならない。管理もできないし、選書もできない。6人のボランティアでやっていて、みんな本が好きだから、図書館から好きな本を選んでる。十分な管理はできていないので、なくなることもある。ノートに書いてあるので個人情報もある。	現在の図書コーナーは、コミュニティセンターへの団体貸出として実施しているものです。図書館同様のサービスを展開するためには、貸出の記録方法など、さらに検討が必要です。

34	<p>老朽化と職員体制とあるが、老朽化は、図書館だけではなく、パルテノン含めて老朽化どうするという基本方針を出さなければいけないので、図書館だけ老朽化で、地域館を維持できないという言い方は通用しない。職員体制は人件費問題を含めてあるので市長を含めての専門的な人員配置の問題である。多摩市において、図書館の 7 館構想は他の市から見たら、見識が高い、素晴らしいことやっているとされてきたものを、中央図書館を作るから 3 館に減らすという話が、理屈抜きに定義されている。</p>	<p>人員体制について、職層ごとの役割の明確化や館ごとの配置と館と館の間の支援体制など、今後検討していきます。</p>
35	<p>現在の地域館がどうなるかわかりにくい。点線が小さくなっていて地域館を大事にしていこうという姿勢がない。</p>	
36	<p>図にも関わることであるが、身近な施設を活用して拠点館を補完とあるが、この中には補完のサービスの内容、規模とか、候補施設、蔵書内容、業務内容、人員配置、運営等についての具体的なことは、何も曖昧で書かれていない。図だけ出して、プログラムの見直し次第というのは少し無責任である。</p>	
37	<p>資料に今までの貸出の状況を地域別にしているが、3 館構想になった場合には、今までの利用としては、減るといいうのが出てきている。分かった上で、こういうことを打ち出すということのは貸出の点から考えれば、故意に減退するものを含んでいるとしか言いようがない。</p>	
38	<p>図書館はコミュニティ施設の中で根幹を成す施設である。それを安易にあっち持っていき、駅に持っていき、その論理を施設の老朽化と職員体制のことしか書いていない。何かあるかなと思ったら、地域課題に対応していないと言う。地域課題に十分対応しているから皆さん利用しているし大切だと思っている。コミュニティとしての場のソフト、ハードの両面の複合館の図書館の評価ができていない。5 つの目標は素晴らしいと思うが、目新しいことは何もない。これを実現するときに、駅周辺に図書館を集約するというのは、どういうつもりか。地域課題の解決のために地域図書館をなくすというのは論理的に成り立たない。</p>	
39	<p>地域図書館はある意味では、多摩市の個人貸出冊数が 2 位を誇り、有能な多摩市民をつくっていく、育てていく拠点館になっている。これをなくしてしまうのは多摩市で育つ人たちの未来を摘むことになるし、極端に言えば多摩市の未来をつぶしてしまうことになる。このスタンスを守っていくためにも、この様な本心にもないような事を出していただきたくはない。</p>	

40	はじめにのところで議会の「もはや不可能である」という平成 23 年度の文言をはじめにの前提に据えることがいかなものか。要するに、行動プログラムを出して市民からおかしいじゃないかとやってきた、という実態を踏まえて書かなければいけない。	
41	活動振興計画はいい事が書いてあるが新しいことは何も書いていない。だが、突然駅前に集約することだけが唯一の論拠になっていて、集約するから地域館をなくすと言っている。なくすから集約するじゃない。要するになくしますということだけを言っている。その論拠で全体の計画を進めるのは私は反対である。	
42	議会で問題になって 7 館と 3 館の関係をあいまいにしようとしている。これが 3 館だったら非常に明解な図柄になる。現在の地域館 3 館は点線で○印になっている。拠点館を補完するものは実線○印で縮小すると言っている。本館は機能強化して大きくするという、関戸・永山図書館は現在の規模を前提に機能面の強化をやるという作文でこれは 3 館構想だ。拠点館を補完すると、館長は蔵書その他を残したいと言ったが、出ているのはトムハウスにおける図書コーナーで、コミュニティセンターの図書コーナーや高齢者コーナーなど要するにコーナーに図書を置けばいいというようなことや、あるいはコンビニその他に配本所を置くなどと言ってきた。その図柄がこの構造がどうなっていくのかこの冊子でわからない、隠されてしまっているからである。	
43	駅に集約するのがいいと言っているが根拠がない。高齢者、子どものために駅までミニバスを頻繁に走らせるのか。コンパクトシティの根幹は交通アクセスの整備で、それなしにコンパクトシティで駅に集約するとみんな漂流する。	
44	策定委員会で書き直すことを期待している。読書縮減計画、名前がそもそも違うと思う。40 ページのイメージ図と、41 ページを全文書き換えてほしい。	
45	わからないように書いてある。わからないように作ってあるということではなくすのかなと思った。新たな本館がめざしている拡大図、本館、拠点館が、対外的に目立つところであり、外面をよくして、後どうするのが書いていない。ネット等を見ても、分析が全然足りない。	

46	<p>図書館というと今まで子どもの視点が非常に強かったが、高齢者の居場所みたいな面もむしろ強くなってきている。高齢者といっても、団体利用をしているようなアクティブな高齢者もいれば、あまり社交性がない、団体に属さないような人達もいる。そういう人達にとっての居場所は多分図書館じゃないか、非常に重要な位置づけである。</p>	
47	<p>この計画は、人口がものすごく減って読書がしにくい状態になった形、3館集中ということで4館は廃止が前提である。分散システムという、今まで日本の同規模市町村で一番トップレベルの利用のされ方がされている、非常に使いやすいという部分が、根幹から落ちてしまうのに、それに対してどうするということが具体的に書かれていない。5千名くらいこの地区だけでも署名があった。4館合わせると1万5千名以上の署名が出てくるというのは、もう少し重く受け止めていただきたい。読書振興という形で、取り組みとされていいこともたくさん書かれてる。</p>	
48	<p>計画の目標像で、多摩市立図書館の基本方針と運営方針で掲げられている、知るを支援するというのは、すばらしいものだと思う。この振興計画が、多摩市の基本方針と運営方針と、乖離して行くのではないかと危惧を覚えた。</p>	
49	<p>6頁に書かれているところこの報告書から言うと、多摩市の方は集中化していくが、近隣の調布や府中にいくと逆に非常に数が多い。なぜ、こうやって地域にみんな中央館のサービスを提供しようとしていると思うのに、多摩市の方だけは集約するという、そのところが説明の中でない。府中でも調布でも集中化する同じような動きがあるのか。この資料だとほとんど変わらない、数は変わらないと思う。</p>	
50	<p>図書館が分散してしまっているために一度の来館で必要な資料が得られないと書いてあるが、これは利用者の方に問題がある。あらかじめ必要な資料は図書館に尋ねて、分散しているならば一箇所にまとめて一つの場所へとりに行けばいい。そのために、一つにまとめるのは理由にならないと思う。</p>	
51	<p>図書館はずっと存続していくということの中で、なぜ後継者を育てることをしてこなかったのか。定年退職はもう何年も前から分かっているはずなのに、なぜそういう後継者対策をしてこなかったか。そういう先からも図書館は減らしていくのではないか。そういう見通しで職員の問題をしてきたのかと、うがった見方をしてもお</p>	

	かしくない。	
52	健康センターで母子保健のお手伝いをしているが、乳幼児にも図書館の方が来て、いろいろ本の紹介をしている。ぜひ子どもさんのために、絵本を読んであげてくださいと言っているが、子どもにとってどんな絵本を読んであげればいいのかというのは、やはり図書館の機能として、すごく大きいと思う。特に、乳幼児を持っているお母さんは、なかなか大きな図書館には行けない。	
53	平成 23 年度の市議会の決算審査の事務事業評価がこの計画のトリガーであるかのような説明あったが、市のほうから教育委員会に対して諮問があり、それに対して出たのが決算委員会の評価だった。認識が違う。	
54	行動プログラムがトリガーというのは、要するに多摩市の財政が厳しいからこの計画ができたのか。その前提からすると、財政を助けるためにどうやって節約するかがこの会の目的なのか。その財政を図書館運営事業で、節約しなければいけないのか。運営費をいくら節約しろとか何%節約しろとか、数値的な目標の指示があるのか。指示がなければ、今あるものを後退させたりやめたりしないで、充実を図るとか、少なくとも現状維持するとか、そういう方向はないのか。具体的な行動方針がなくて、いきなり図書館行政の中に突っ込んでくるのはおかしい。	
55	中央館を新たに作る、その青写真も我々には示されていない。それを作るから地域館を犠牲にする。今全体で図書館関係の人は 100 人いるが、中央館を作るから、削るしかないとか見えないう形になっている。そのやり方として、3 館集中ありきという計画ではなく、今まで実績を掲げてきて、いつでも誰でもという、一番に書いてあることが実現できている今の分散システムの中で、どうしていくかという改善案をやっていただければ、この非常に多くの署名とか、皆さんの意見も、もう少し建設的に前向きになると思う。地域館をやめてしまうところから、サービスポイントという受け渡し、そのうち子どもの図書は残す、蔵書があると変わってきた。3 館集中ありきという出し方をするから、みんな納得しきれない。	
56	振興計画という、これからもっと良くして行こうというときに、地域図書館がなくなって、振興になるのか。	

57	<p>図にも一応点線でこのような形になっているが、はっきりと地域館を残すとかそういうことは言っていない。枠が小さくなっているだけ。行動プログラム次第だとこの計画は言っている。館長は、これを策定した責任者でもあるが、どのような補完機能を考えているのか。</p>	
58	<p>地域館も残し、かつ、今図書館がないコミュニティセンターにも図書コーナーを作ると考えてよいか。</p>	
59	<p>新聞雑誌だけみたいな色彩が強く、魅力がない。諏訪の商店街の脇にある市の施設にも、図書コーナー、よく位置づけが分からないコーナーがあるが、魅力を感じない。蔵書の魅力が居場所にとって重要だと思う。</p>	
60	<p>拠点館を補完するのに蔵書が必要ということで、コミセンなどに置くということも明記されているが、あくまで、図書館機能のない拠点ということ。貸出サービスとかレファレンスサービスのない蔵書だけ、本を置くだけという意味。図書館法に基づいたものではないということか。</p>	
61	<p>駅の周りの図書館のみ残すということになれば、これは高齢者を無視した話だと思う。80 才にもなると、この聖ヶ丘図書館が一番必要なものだし、ここでお願いすれば取り寄せてもいただけるので利用している。老人に対する配慮が欠けていると感じる。</p>	
62	<p>要するに行動プログラムが言っていることそのものだと思う。分散の地域、地域館というものの機能を大切にやってきた今までのその図書館のシステムを、集中型に転換する。これはどこでそういうことが決まったのか。分散型の地域館という多摩市がやってきたその図書館のシステムの評価がどこに書かれているのか。その評価がどこにも現れないで、今までの多摩市の歴史が抜けてこの振興計画というのできている。読み聞かせみたいなものは、本館機能だけでどうやってできるのか。そのことは重大なことで地域の豊かな読書の文化に貢献しようといったときに、抜けてはならない機能だ。どこにパブリック市民の意見を求めるのかというのを、もっとはっきりした形で整理して出していただきたいと思う。</p>	

63	<p>この基本方針と運営方針ができ、図書館協議会の答申があり「高い機能を持つ中央図書館は必要だが、各地域にあり市民の身近な利用に供される分館も変わらず大切である。で、むしろ中央図書館による分館の支援が強化されることで、身近な窓口として役立つ分館の信頼が高まり…」となっている。だから、本当にこの計画の中に出てくる、その 40 頁の図にしても、補完をするという言葉が使われているが、先人たちが、諮問を受けて答申を積み重ねてきて、その中で使われてる言葉は補完ではない。地域図書館が大事だ、大切だということを強く訴えている。そこを酌んで、振興計画は作られるべきなのではないか。</p>	
64	<p>先ほどから高齢者が、使える図書館、身近な図書館ということできなくさないで欲しいという意見がたくさん出ている。乳幼児、乳幼児を連れた赤ちゃんおはなし会に関わっているが、ベビーカーに赤ちゃんを乗せてお母さんたちは図書館にやってくる。車のある方ばかりではないと思う。それから、6 才から 11 才の子どもたちが、身近にある図書館は使うけれども、永山とか桜ヶ丘とか本館へは、一人で行くことはできない。私も高齢者だが、ずっと聖ヶ丘図書館以外はほとんど使ったことがない。40 頁に拠点館を補完とあるがすごくあいまいで、はじめはサテライト機能という言葉を使っていたが、予約の受付と本の受け渡しだけでなく、蔵書も置くと言われている。それとともに、やはり図書館は人が必要だと思う。本があるだけで何も無い図書館は機能しなくなると思う。おはなし会とか、子どもと本をつなぐという活動をしている者にとっては、職員がいなくてそういうサービスはどうするのか。やはり今の、図書館としての機能はなくさないで欲しい。</p>	
65	<p>この 40 頁のこの図で、この真ん中の左の四角の拠点館を保管する身近な場所という括弧の中のタイトルは、身近な地域館に変えて、それからその下のラインの中の、拠点館を補完というのは、地域と高齢化時代のニーズに応えると、変えていただきたい。そうすれば、いくらかでも現実に近づくとと思う。</p>	
66	<p>中央化していき、人件費的にある程度かかるかもしれないが、新館を建てるとなったらそれだけの建設費と運営費がかかってくるはずで、そこのバランスのことが全くなく、新しく考えている本館というイメージの絵が出て、どのくらいのお金がかかって、作ろうとしているのかというようなイメージもぜんぜん提示されていないので分からない。それが無いと廃止という方向に対しては非常に問</p>	

	題が出てくると考えている。	
67	<p>およそ 3 館に集約した場合に、今の 7 館プラス 1 の地域館がある状況から、3 館プラス1分室にしたとき、つまり行動プログラムに示されている地域館を廃止したときに、聖ヶ丘の地区などは、低下する空白の地域になる。こういう地域にも、図書館機能が必要と考えられる。47 頁にもそのことは具体的な提示はされていない。</p>	
68	<p>連光寺の 6 才から 11 才を見てみると、聖ヶ丘図書館を使っている方がとても多い。やはり永山図書館にはなかなか行けない、この聖ヶ丘図書館はなくしてほしくない。特に連光寺は広い割には、公共のものは福祉館一つしかない。その中では図書機能もないし、私たちが集まる、一般市民が集まって、いろいろなことをする施設もない。コミュニティがないところでは、非常に連光寺に住んでいる人達は、同じ市民なのに、差別されてるのかなという思いもする。身近なお母さんたちと話ができる場所もあるということは、とてもいいことだと思う。本に親しむとか、想像力とか、やはりなかなかそれは学校だけではできない。図書館でしかできないものもたくさんあると思う。</p>	
69	<p>6 才から 11 才の子どもの話は出てきているが、この会はほとんど高齢者が来ている。そういう人が使いやすい図書館の検討はされているのか。こういうことが一つもなく、図書館がなくなって車で、電車で行きなさというような方向で話があるが、逆に使い勝手が悪くなっている気がする。</p>	
70	<p>読書計画、振興計画と、地域館廃止、もしくは拠点館への集約というのは、もう基本的に矛盾していて、相容れない。だから、3 のところ、取り組みで、1 から 5 までの課題を挙げているが、これは地域館をなくしたら、基礎になるその 30%という数字が落ちる。地域館を利用している方は3割いるため、どうにも成り立たない。みんな論理矛盾。中央図書館をもし作ったとしても、どういう規模の図書館になるかさえ見えてない。維持費の削減になるかどうかさえわからない。図書館全体で 3 館に集約され維持費の削減になるのかも保証がない。そういう状況の中で、無理に 3 館集約の方針を読書計画とリンクさせようとしているとしか読めない。</p>	

71	この計画は、凍結していただきたいと思う。この実施が、平成 28 年の 4 月、この春からの施行になっている。それまでに何とか成案を得たいとしている。それはいくらなんでも乱暴すぎる。やはり市民に提示されて、やはり議論を、時間をとっていただきたい。半年かけても1年かけても、みんなが納得できるようにして欲しい。一言で言えば地域図書館をなくさないで欲しい、この聖ヶ丘図書館をなくさないで欲しい、単純にいえばここだけである。	
72	全域サービスを守るとか、多様な年齢層のニーズに伝えていくということがきちっと盛り込まれていかないと、他の多摩地域の競争に負けてしまうのではないか。財政の厳しい多摩市は一体どういサービスを守っていくのか、市長を中心にどういうものを大事にして、この市の魅力を高めあるいは維持していくことになると思うので、この計画としては何を大切に守って育てていくのかを多摩市の実情と併せてきちっと出てくるようにしてほしい。	
73	図書館は読書活動の場だけではない。市民の書齋としてたくさん本を借りて調べられるような場所もほしい。自分のところから図書館がなくなってしまうたら大変苦労されるか方も多いと思う。いつまでに図書館ができるということも書いていない。多摩ニュータウンは駅の周りにだけ人が住んでいるのではない。こんな計画を作って市民のためだと思われたら困る。最初から考え直してほしい。特殊な地形のところに図書館を作ったのだからバスの便の考慮や図書館らしい図書館を早くつくってほしい。ただ本を貸すだけでは足りない。	
74	自分で学べるということは人間で一番楽しいことだと思う。その場所が自分の近くからなくなってしまって遠くまでバスで行かなければならない、買い物で荷物がいっぱいなのにさらに図書館で本を借りて動けるのか。そういうことを考えてみてほしい。	
75	60 代ならまだ動けるが、70 代になると足腰が弱くなり本を借りに行くのも、p.51 の統計にも出ているように減ると思う。高齢者の心身、健康を守るために地域館はぜひ存続をしてほしい。	
76	移動図書館は今図書館がない地域には必要だと思うが、今ある地域館を縮小するのはやめてほしい。唐木田、豊ヶ丘は年間 5、6 万人の人が使っていて、東寺方は子どもが産まれてくる地域で利用人口も増える。聖ヶ丘にしてもそうだ。	
77	焦点を人数が多いところに当てるのか、少ないところに当てるのかだと思うが、多摩市はこれから急速に高齢化して、高齢者の図	

	<p>書館利用者が増えるのに、全くそれに対する計画がないのはどうか。</p>	
78	<p>もし全域サービスの形を変えたとすれば、図書館員とか学校図書館であるとか様々な読書活動なり図書館サービスを支えるものとして、移動図書館を復活した上で図書館員が出向いてサービスの提供に努めるということをやっていたほうが市民に対する説得力が増すのではないか。</p>	
79	<p>多摩は坂が多いから、高齢者が歩いて行ける範囲で図書館を利用できないと困る。連光寺の住民からも図書館がほしいという意見が出ているが、本が置かれるだけでは図書館ではない。ちゃんと職員が配置されて、本が循環していくのが大事。それが抜けるような形でいくらサービスポイントが作られても、なかなか利用しにくいと思う。</p>	
80	<p>全域サービスを守る上でもし地域館の中身にある程度かえるのであれば、高齢者のニーズや若年層なり小さい子どものニーズに対して移動図書館を復活することによってサービスを補うことができるのではないか。</p>	
81	<p>職員体制をきちっとして、司書の資格を持った人を少なくとも各地域の館に一人以上配置してほしい。適切に配置をしていかないと職員が定着しないし育たないのではないか。その辺りを踏まえた計画をつくってほしい。</p>	

82	<p>今までの図書館の活動をさらに振興する計画になっているかという、読んでみるとこれ振興計画じゃない。削減計画である。先程3館にしたらどうなるか、巻末資料では、満遍なく行き渡っているような状況なのに、これを計画通りにやったらこんなに薄れてしまいますよという、自ら資料として示しているところにもやはり問題があると思う。さらにこの矛盾がなぜあるかというのは、やはり廃止計画を盛り込んだ形でのこの文章になっているからである。このまちのいろいろな読書の状況と市民が図書館を活用するのが全国的にもトップクラスだというのは、やっぱり地域図書館があったからこそこの状況だと思うが、その地域図書館の役割というのが全くと言って良いくらい書かれていない。やはり身近で誰もが使えて、そして子ども達が来ることができて、地域に役立つ図書館、つながる図書館、どれもやはり地域図書館なくては出来ない事ではないか。こういった矛盾が出てくるのも、このプログラム作った後これで推進するつもりでいたのが、市民の運動の中で図書館を存続して欲しいという署名が1万5千集まった。市長もこのプログラムはたたき台であり、図書館問題に限っては最終的には見直すと言い、地域図書館存続の方向で議会でもいろいろ論議される中で、これを見直すと議会で、市長も教育委員会も答えているという中では、まず見直しを進めた上で改めてこの推進計画を作るべきではないか。今のままだと、矛盾が多くよそに出せないような計画になってしまっているの、やはり見直すと言っている以上はせっかく市民の声を聞いている段階なので、この計画推進の中身は見直すことを前提とした、市民の推進計画にしてほしい。</p>
83	<p>なぜ4館をなくすのかが全然見えてこない。図書館が大事であることはみんな言っている。予算を削るところは他にあるのではないか。からきだ菖蒲館の設立準備委員会では、みんなが歩いて行けるくらいのところに図書館を置こうという話だった。一極集中ではなく多摩市に住んでいる各地域の人が徒歩もしくは自転車でいける。大きな図書館で一箇所で閲覧や学習が出来るよりも、各地域でこまめにインターネット予約の受取ができるために小さいところは残しておくべき。本館ができるからその期に乗じて他のところをなくしてしまう、予算上の理由だけでやって欲しくない。予算以外、良いことばかり言っていて、なぜなくさなければいけないのか全然分からない。それを説明して欲しい。どうやって</p>

	決めたのか。これで 3 月で結論と言われても、結論ありきでは納得できない。	
84	今まで多摩市立図書館が果たしてきた役割は非常に大きく評価されているにもかかわらずこういうのが出た。計画の目的等の良いことの実現のために 4 館をなくすというのは逆行しているのではないか。	
85	大きなところだけでなく、身近なところで活動、活用できる図書館があってほしい。ないところに図書館をつくれと言っているのではない。今ある図書館をさらに充実させなければいけないはずなのになぜなくすという結論が出てくるのか。これは文化の問題でとても大事なので、お金のことで地域館は削って欲しくない。本当にここを削るしか多摩市の財政は成り立たないのか。教育委員会だけで結論を出してほしくない。	
86	図書館の場所があるだけでもすごく意味のあることだし、現実問題は費用等が問題になっていると思うが、この図書館を残すためにはみんなで一緒に考えましょう、こうしたら残せますよという提案が欲しい。そうすると、では我々はどうそれに関われるか、費用削減できるのか、我々はどういう役割を果たせるのか。図書館は地域活動の拠点として非常に重要な場所で、図書館活動だけでなく広い意味のコミュニティ作りに役立っている。残すためにはどうしたら良いという提案や方法論を提案して欲しい。色々な人がどういう形で参画できるのか、図書館法などの縛りをどう解釈してこのまちや図書館をつくっていくか。ここを残すためにはどうしたら良いのか、専門的な立場から提案して欲しい。存続のために我々はどう関われるかということも含めて市民懇談会に参加している。残すためには力関係もあると思う。例えば 5,000 名の署名を集めたら可能性があるとかそういう具体的な提案が欲しい。	
87	図書館は最低限のインフラであり、セーフティネットである。これがなくなったら我々の文化面を支える生活はどうするのか。公共交通の駅前である他の駅、桜ヶ丘、多摩センター永山は拠点館であるが、唐木田も公共交通の駅前であり、小田急線の始発駅である。他の駅と違うところは、直接都心に行ってしまう多摩センターは素通りしてしまう。わざわざ本館に寄ってそこで本を借りるというふうにはならない。唐木田駅は他の駅と違って独立性が高い。そのまま駅に行ってしまうという特異性がある。むしろ分館	

	<p>というよりは準拠点館に位置づけて格上げして欲しい。唐木田図書館がなくなったら買い物ついでに行けなくなってしまう。</p>	
88	<p>図書館が開館してからたったの2年で廃止計画を作った例はあるのか。これに関わった市長は責任を取って欲しい。</p>	
89	<p>地域館は多摩市の独自性、強みでもあると思う。多くの方が借りられているというのは、地域にあることが貢献していると思う。一方で、地域館4館を廃止とする、十把ひとからげは乱暴ではないか。地域館全館大事であるが、唐木田はまだ出来て2年、5年で廃止というのはいかにもおかしい。市の判断ミスを露見させているようなものだ。このまま廃止ということになれば、誰が責任を取るのか明らかにしてもらわないと、納税者としては納得がいかない。唐木田はまだ新しく、市民の長年の活動の中で生まれた場であり、高齢者は長距離歩くことが難しく地域にあることが重要になる。唐木田の独自性として大妻などの学校があり学校図書館では担えない地域の図書館としての役割も果たしているからこそ、たくさんの学生・生徒が活用していて、昼間や土日でもたくさんの方がいる。それぞれの地域館のここの強みを評価して、それで残すための施策を検討して欲しい。</p>	
90	<p>調布市の図書館長の講演で調布市では、同じ税金を払っているのだから全ての地域に歩いて10分のところに図書館をつくり整備してきて、中央館入れて11館つくっている。多摩市も図書館が減ってしまったら同じ税金を払っているのに使いにくい人が増えてしまう。規模のめりはりはあって良いと思う。本館をもっと充実するのであれば、地域館の休館日を増やすとか時間を縮小するという手立ては考える、同じようにしてくださいとはできないと思うが、残せるような方向でもうちょっと具体的に良い形で考えて欲しい。</p>	
91	<p>多摩市の施設白書によると、唐木田の費用が人件費含めて4,065万、4つの地域館合わせても1億5645万円である。多摩市の予算500億円のうち0.3%である。唐木田図書館は延べ5万8500人の人達が利用しているが、46ページにあるように、利用率が10%、10分の1になってしまう。市の予算のたった0.3%なのに、施設は残せない財政が大変だと、市の言うことが全く当てはまらない。一方でパルテノン多摩は市議会に出されるのが58億4千万、それにプラスαで上乘せがあって60億くらいで、これを15年くらいで返済、市債と都市計画税でやろうとしている。パ</p>	

	<p>ルテノン多摩を改修するのが悪いとは言わないが、それから見てもたった1年で1億5千万、これで4つの館が持って子どもや高齢者が図書館を利用して生き生きと暮らせる。多摩市の読書率2位、予約率1位、この優れた図書館が役割を果たしているのに、それをなくすのか。</p>	
92	<p>途中までは納得のいくことが書いてあったが、突然廃館、4つのところの廃館というのが出てくる。市は色々な事を考え時に新しいことや目立つ事、脚光を浴びることをやりがちだが、図書館は普通の当たり前の借りたり返したり、学習したりちょっとくつろいだり、そういう場所で良い、だから残して欲しいと思って来ている。唐木田図書館は決して蔵書は豊かではないがやっぱり地域にあるという事が色々な意味で大切だと思うから、読書活動振興計画の本旨に則れば4つの図書館を廃止してはいけないと思う。</p>	
93	<p>多摩市はだんだんと高齢化している。自分の夫も歩けなくなってきたため自分が代わりに図書館に行っているが私自身も足が不自由なため本来なら本館が近いが、ミニバスを利用している。地域に分散したこういう図書館をぜひそれぞれの地域にそのまま存続させて欲しい。</p>	
94	<p>2013年の11月に「公共施設の見直し方針と行動プログラム」が出て、その中で4地域図書館の廃止があり、廃止の対象になっている4図書館でそれぞれ住民運動が起きた。その後陳情が出され、市長との懇談会もあり、市議会議員選挙の争点にもなり、そういうことがあって市長がこの行動プログラムはたたき台ということを議会で答弁されてここに至っている。市の行動プログラムが教育委員会や図書館にボールが投げられていると思う。だからこの読書活動振興計画が出ている。そういう意味で検討する場所が市の全体だったり市議会だったりするのが今度図書館という限定されたところに投げられたので、これだけの住民の意見を反映して、今度は市に対してこれでパブコメを取ってみたいけれども、懇談会を開いてみたいけれども、存続して欲しいという意見が多かったと市にそのボールを返して欲しい。この2年半近く、このことは市政の大問題だと思うので、図書館の方、教育委員会の方は今その意見を聞いて市にそのボールを絶対投げかけて欲しい。「だれもが使える図書館」が必要だというように、意見としてこれを書き換えて市に持って行って欲しい。このまま何も言わなかったら廃止されていたものがここまで来ている。それを本当</p>	

	に受け止めて欲しい。	
95	<p>地域にある図書館というのは多摩市民にとっても、外に向けても多摩市の良いところという売りの一つにするべきであって、簡単に廃止するという意見が出てきていることにとっても不思議な感覚を覚える。図書館は文化の拠点であり子ども達を育てる場であり、子どもの手を引いたお母さんや高齢者が良く見えている。やっとここに出来たのに、それがもうなくなるというのでものすごくびっくりしている。一体何を考えているのか。唐木田以外の地域館もそれぞれの地域ですごく大事な役割を果たして来ていると思う。地域図書館に行けることで本を借り、読むことができる人は大変多いと思う。多摩市として弱者に優しいと言うが、言葉でいくら言っても実際にやっていることは全然やさしくないという感じがしたので、実際にやっている事とこういうふうにしたいという事が一致するようにお願いしたい。</p>	
96	<p>絵本かたりかけのボランティアをやっているが、その際に母親に「帰られましたら近くにある図書館に行って絵本を手にとって見てください、そして子ども達にぜひ絵本を読んであげてください」と伝えている。しかし、そういうお母さん達は一箇所しかないところの、大きな立派な図書館があったとしても多分行けない。やはりあちらこちらに図書館があるのが良いと思う。また、ここに子どもへのサービスの充実とあるが、最近インターネットもあるが、私は本の中に文章として残って紙で残っていくものがあるのが必要ではないかなと思う。それと自分は高齢になって本を買わないで図書館で読みたい年齢になってきた。そうすると、遠くに行くよりも近くにあったほうが良いかなと思う。そういうところから素朴に、財政のことだとか色々問題はあると思うが、私はあちらこちらに図書館があってほしい。</p>	
97	<p>ヨーロッパなどでは、小さな図書館を民間でほとんど地元の人達がボランティアで運営している。それがどうして日本でできないのか。例えば中学校、学校は司書さんが一人で運営していて、図書館委員が手伝っている。今後の図書館こうあるべきだという形を具体的に提案して欲しい。予算が使えないという事実だったら、ここを残すためにはこういう方法を取れば出来ますよとか、市民のみなさんこういう事をしなさいとか。将来ここで育った人達はよそに行った場合にはふるさと納税して、市を潤してくださいと</p>	

	<p>か、色んな形の展開が出来ると思う。例えば 2,000 万だったら残しますよとか、残せそうですよなどと提案して欲しい。</p>	
98	<p>地域館を利用している人は同じ想いだと思うが、古くなったからなくなるのではなく、改築すれば良い等色々な方法があると思う。どうして 4 館をなくすのか、そういったものを具体的な形で数字で示す、予算は今いくらでいくら足りないとか、あるいはいくら必要なのかとか、具体的な形として提示してもらって、では残すためにはどうすれば良いのかというのを、具体的に示して欲しい。中央図書館だけを残すとすればこういうメリットがあるとか、そういったものを具体的な形で、3 月に廃止しますよ、あるいはまた見直しますよという抽象的な意味ではなく、ちゃんとした数字として出して欲しい。そうすると、時間短縮の問題だとか休日、休館日をちょっと増やすとかそういったものを含めてまた議題、討論できる。じゃああるいは民間委託の問題だとか、あるいはここは運営委員会がありますけれども、図書館の人とは別途に半分は運営委員でボランティアみたいな形でやればコストは下がるとか色々な方法があると思うので、そういったものが各地域出た案を元にして出してもらい、それをまとめて案について再提案して欲しいなあと思う。今度は意見を土台として、残すためにはどうしたら良いか、あるいはどうしても残せないというのであればそういったものも含めて出して欲しい。</p>	
99	<p>唐木田は 9 名で 4,065 万で、同じ利用者数の東寺方が 1,000 万強ですかで 4 名で運営できる。こういう事を、全然比較しないで単純にここだけがなくなる、なくしたいという。こういう短絡的な発想をなぜするのか。誰がこんななくすような話をしているのか。「読書活動振興計画」となっているのに場所を減らして振興できるのか、何も具体的な話になっていないのに誰がこんな指示をしているのか。市議会議員の話では、いわゆる館を減らしていく話とは全然違う。こんなもの何でやらないといけないのか。もう少し真面目に提案して欲しい。館長は実は市の職員を入れても安くなる計画があるかもしれないという案を少し出していたが計画には何も入っていない。マイナス振興することの話だけしか出ていない。残すにはどうするんだという話は何もない。市民のためにならないことを一生懸命やっている。こんなで税金を払いたくない。もっとしっかりどうするんだということを出して欲しい。表紙の</p>	

	タイトルと職員が行動することがまちまちである。真剣に考えてほしい。	
100	唐木田図書館は今は新しいが、古くなったら閉館するのか、というのではなく図書館みたいなのは古くなったら改修して存続させていくのが非常に大事であり、唐木田だけじゃなくて4館全部残してもらいたいと思う。市の0.数%の予算がどうして取れないのか。人を育てるといふ点では文化は大事なので私達が出した意見をきちっと汲み上げて検討して欲しい。	
101	からきだ菖蒲館が出来る前から知っているが、廃止とか縮小の理由が私には全然見当たらない。人件費がかかるというのであれば、図書館介護予防ボランティアのような事で、職員みたいに専門的な事は出来ないにしても、対応とか色々できると思う。それだけでも相当人件費は抑えられる。図書館を盛り立てる、自分の力で唐木田図書館を存続させていると生きがいを持つのでは。休館日を増やしたり閉館時間を早めることによる人件費の削減では唐木田図書館の良さがアピールできない。5時に閉館しても施設はあるわけだから、夕方にボランティアが出てきて、貸出はなくても館内で勉強や閲覧は出来るようにすれば、人件費はかからないのではないかな。工夫すればいくらでも出来る。	
102	「だれもが使える図書館」とうたっているながら縮小や廃止の話が出ていて、掲げている事と逆行している。	
103	ソフト面に限って言えば良く書けていると思う。特に30、31ページの「子どもへのサービスの充実」で「あらゆる機会とあらゆる場所において自主的な読書活動ができるようにし」と書いてあるが、そのとおりである。この時間(18時)でも若い世代の方がロビーで勉強しているが図書館が併設されている事も相乗的に影響していると思う。若い人達がこれからの多摩市を支えていくのであり、人を育てなきゃこのまち、将来は良くなる。文化の振興は最も大切な事であり、そういう限りにおいては、細かいことは色々あるが、教育委員会の言うとおりだと思う。	
104	色んなものを中央集権的に集中されているが、それは今の時代に完全に逆行していて、分散型に持っていけないとますます市の財政は破綻していくと思う。唐木田図書館を唐木田地区のキーステーションにして、鶴牧地区などに小さい図書館や集会所のところに小さい図書館を自主運営するなど、そういう形の提案が欲しい。	

105	唐木田駅の駅前にあったスーパーがなくなった事があり、主婦や高齢者がそんなに労力を使わずに立ち寄って買い物ができなくなり大変だったと近所の方が言っていた。図書館もそれと同じで、多摩センターまで行くのは大変。中央図書館をそこにつくれば良いという問題ではない。	
106	なぜ縮小しなければならないかというところで一番大きいのが人件費とあるが、委託の場合節約になるのか。図書館には人が必要で、専門性を持った人がいることを含めて図書館サービスだと思うので、私は民間委託ではないほうが良いと思うが、民間委託であれば費用はかかるのだから、数字が出ているのであれば教えて欲しい。	
107	一部例外の方はいるが、この図書館を継続してほしいというのが圧倒的に強い意見。このことをきちっと記録されて、館長はそれを上層部にきちっと伝えて欲しい。だけどハード面は 0 点である。その事をきちっと上層部に話して、施設計画は絶対ダメだということを図書館長の責任で、市長にきちっと言ってほしい。	
108	老朽化したので東寺方図書館を廃止するという、市長・市議会議員と、市民の意識の乖離を感じる。東寺方図書館を維持するのに年間どの程度費用が発生するか記載がない。市議会議員の密室の談合により東寺方図書館を廃止することは一市民として断固反対する。	
109	聖ヶ丘図書館を廃止しないでください。加えて「多摩市読書活動振興計画(原案)」の策定について凍結してください。「新たな本館」の再構築を理由に地域館を廃止しないでください。そもそも「多摩市読書活動振興計画」の目的は文字どおり読書活動の振興計画であって図書館の再構築をこの計画のなかで扱うこと自体無理があると考えます。	
110	市民の読書活動を振興するには、目標にもあるように“だれもが使える図書館”“子どもへのサービスの充実”等が実現されることを望む。だとしたら、4 地域館は、現状の場所で存続、充実と明記すべきではないか。利用冊数で 3 割を担っている 4 館の役割は大きい。むしろ、46 ページで利用度の低い連光寺などの地域にもう 1 館増やしてもよい。	
111	ひじり館ロビーに設置している、存続を求める住民の声は衰えない。営々として築いてきた素晴らしい多摩市の図書館行政をここで後退させず、「みなさんの声を重視します。最終案ではありま	

	せん」の言葉を文字どおり実践することを期待する。	
112	地域館 4 館の存続を希望する。	
113	豊ヶ丘図書館を残してほしい。住んでいる豊ヶ丘 1 丁目は駅から遠く高齢化が進む中で家の中に閉じこもりやすい。歩いていける場所に図書館があるということは日常生活の中であたり前になっている。豊ヶ丘図書館の北隣には豊ヶ丘南公園があり、寄り道をして散歩したり、この地域の高齢化している人たちの“介護予防”にもなっている。	
114	高齢者から本を遠ざけないでください。歩いていけるところにあるから運動と楽しみを兼ねて利用できる。他の 3 図書館についても同じく言えます。近隣の公共施設をより使いやすくすることに、私たちの税金を使ってほしい。	
115	貸出や予約のサービスで非常に多くの利用がありと評価しておきながら、それをさらに発展させるべき「振興計画」は「多摩市公共施設の見直しと行動プログラム」に取り込まれ、それを残念がるでもなく、先取りして論じているのは残念。“振興”させ、上記の評価からすれば 7 館 1 分室を存続させ、さらに発展・充実させることではないか。	
116	現行の地域館を存続する体制を維持した方が今後の市民活動の発展にも役立つと考えられる。もし、維持できないとするなら、維持できない財政状況を詳しく知りたい。(現行市財政との対比)	
117	地域図書館で分散してきたサービスをなぜ、新たな本館の再整備と課題にすりかえてしまったのか。現状維持も考えずに廃止とは。図書館を利用する住民の立場を無視した行動である。	
118	読書活動における地域図書館の役割をどう考えているのか。必要がないのなら、その理由を記せばよい。基本方針との整合性にもふれていない。図書館の数を増やすことから減らすことへの大転換がこうも簡単に決められるのか。時折行く本館・永山・関戸と頻繁に行く聖ヶ丘の利用度は差があるが、費用対効果だけで、行政サービス・図書館サービスを計っていいのか。3 館に集約した場合、幼児・子ども・高齢者はどうするとの想定か。負担を感じながら 3 館に行くかやめるかだ。	
119	多摩市は全国でも有数の文化都市をめざしているのだから図書館減少計画をとりやめてください。	

120	中央図書館建設に反対するものではないが、それと引き換えに地域館を廃止するのであれば、聖ヶ丘図書館を利用するものにとって、読書活動“減退”計画としか言いようがない。多摩市の読書活動の「活発」はまさに今までの 7 館体制によって支えられてきたものではないか。ぜひ、この際、英断を持ってこの計画案を撤回し、市民の声を受け止めた「行動プログラム」の「更新」がなされた後にもう一度検討して出してほしい。最低限でも、「3 館集約構想」に添っていると思われる文面を削ってほしい。	
121	この計画は「市民の『知る』を支援する」に資する内容になっていない。なぜなら、これは、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の方向性に沿った地域館での分散したサービスを削ることが大前提で書かれている。利用している聖ヶ丘図書館は廃止されるようになっていて、この計画を認めるわけにはいかない。	
122	廃止が計画されている 4 館で 3 割程度の利用者がいる。多摩市規模の市町村での貸出、予約等の利用が 1.2 を誇る現状がこの計画どおり地域館が廃止されると利用者が確実に低下すると思う。この観点からも 3 館集約型の考えは再考していただきたい。	
123	70代で、足腰が悪くなってきている。バスに乗って永山図書館に行くのは大変で、利用が著しく減少するのは目にみえている。孫が来たときに本と一緒に選んで聖ヶ丘図書館を楽しく利用している。幼児と歩いていける近くの図書館からなくなるのは困る。	
124	計画(原案)は、これまでの、地域図書館 4 館廃止計画見直しの市民要望運動に配慮しているかの記述とも読めるが、その前提は、地域館 4 館廃止と機能集約となっている。行政が目指すべき図書館の姿も計画の方向性もみえてこない。	
125	多摩市読書活動振興計画は、多摩市の図書館の地域館4館を廃止し本館整備と拠点図書館の3館に集約する計画を大前提として策定されている。地域図書館の廃止は、市民の間からは大きな反対の声が上がっているのはもとより、子どもたちにとっては、通い慣れた身近な図書館がなくなり「多摩市の子ども読書推進」にも大きな影響がでる。私は地域館の廃止に反対する。	

126	<p>この計画書は、地域図書館4館を廃止し、拠点館と呼ばれている3つの図書館に機能集約することを前提に書かれている。現在の多摩市の図書館システムは3つの拠点館と4つの地域館が図書館のネットワークとして繋がって機能している。さらにインターネットの技術は進み分散化している図書館はその技術をさらに利用できるはず。今まで構築されてきた使いやすい多摩市の図書館システムを破壊して計画書に示されている集約型システムに移行したとして、また分散化システムに戻そうとしても無駄な費用がかかる。</p>	
127	<p>計画書には多摩市の図書館環境の持つ、課題が挙げられている。その課題の解決案も計画書では、集約化を前提に考えられているものが多い。「分散化」自体が問題の原因であるように書かれ納得できない。集約化という前提を外して課題の解決案を考える必要がある。現在、「分散化」がうまく機能しているのに十分な検討もなく「集約化」への移行を前提とするこの計画には賛成できない</p>	
128	<p>財政的な理由も地域図書館の閉鎖が考えられている理由の一つでしょう。なぜ他の、費用のもっとかかる大規模施設を後回しにして図書館を標的にするのか大きな疑問だが、どうしてもいうなら、今の地域図書館を残すことを前提に節約を考えることはできないか？</p>	
129	<p>存続を前提としたアイデア・東寺方図書館の定休館日が現在の週1日から、二日になったとしても良い。・図書館間の本の転送も、現在は1日に一回以上行われている。それが二日に一回になったとしても困らない。・新しい本がすぐに入る必要もあまり感じない。すでに多くある良書がきちんとあることが重要。それらの本が東寺方図書館に常駐している必要も感じない。地域図書館・拠点図書館がネットワークでつながっているから。・東寺方図書館の開館時間が延長する必要も感じない。その他、いろいろ考えられる。・地域図書館の利用者の利用方法は様々だが、それぞれ地域図書館存続を前提にどのようなことが経費節約のためにできるか聞かれればいろいろなアイデアが上がってくる。</p>	
130	<p>地域館の閉鎖理由がわからない。市財政における図書館運営費と福祉予算増大の関係等を具体的に数字で説明してください。</p>	

131	地域図書館存続については、より多くの市民の意見を反映する振興計画なのに、地域図書館を減らす必要ばかりが述べられている。中央図書館は絶対に必要。でも、それと地域図書館をなくすことは次元が異なる。地域図書館を存続させつつ中央の機能を強めていくことは矛盾しない。	
132	地域館をなくさないでください。	
133	地域館を継続して欲しい。近くに歩いて、又は自転車でいける図書館があるのが大切だ。	
134	多摩市内の公共交通駅は聖蹟桜ヶ丘、多摩センター、永山、唐木田の4駅です。唐木田を除く3駅の図書館は駅前拠点館と位置付けられている。唐木田駅の現況は、小田急線始発駅であることから交通の要衝といってもよい。多摩センターにワンストップすることは少ないと考えられる。なぜなら、通勤、通学客は忙しい毎日のなかで、多摩センターでわざわざ下車して本館を利用する必要性が乏しい。児童や高齢者にとっても移動を強いることは一層困難なことは自明のこと。多摩市内の中でも唐木田地区は、他地区と違って独立性の高い地区と考えてよい。そして、建物は、平成23年竣工であり、施設の更新、建替え等の必要性(45p)は全くない。以上に鑑み、唐木田図書館は、むしろ、この際、地域を支える準拠点館としての位置づけが必要と考える。	
135	読書活動振興計画の方針転換は、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」の中で“地域図書館 4 館の閉鎖、本館と拠点館の 3 館体制”を打ち出したことにあると考えるが、「行動プログラム」は、市民の声の高まりの中でまだ決定されていない。教育委員会は独自の権限を持っているはず。本来の読書活動振興の為に力の発揮を願う。「本館の充実」は理解できるが、全国に誇る実績を生み出した地域分散型方針の転換は本末転倒である。「多摩市読書活動振興計画」の再考を求める。	
136	聖ヶ丘図書館でよく過ごし、本をかりている。1歳と8歳の子供は本が大好き。車で遠いところまで借りにいくのは大変。大人と子供たちがメディア漬けにならないためにも、とても大事な役割があるし、本を通じて本当に心が豊かになる。Wi-Fi が使える場所ではなく、本に触れ合い過ごせる場所が必要。	

137	<p>個人貸出冊数 2 位、予約件数 1 位など活発な図書館活動をなぜ縮小するのか。駅前と中央図書館を拠点になぜ変更する必要があるのかわからない。拠点に集約すれば、廃止を計画されている地域の人はバスで、マイカーで、徒歩で拠点館に行くことになり、不便を感じ、利用者は減少するだろう。</p>	
138	<p>多摩市の図書館は、全国と同レベルの市町村の中で、貸出冊数が第 2 位、予約受付件数が第 1 位とこれまでを誇っている。誰が“地域 4 館廃止と機能集約”をどの場面で要望しているのか不明。誇るべき図書館行政の分散システム維持の方針を前提とした、具体的検討と改善案を市民に示していないばかりか、地域 4 館廃止による地域の不利益の考察に欠ける。</p>	
139	<p>以下のことを計画に盛り込んでほしい。・これまでの7館体制での図書館網・実績について多面的に評価し、計画に生かすこと・今後もこの全域サービスの図書館網を崩すことなく、むしろ拡充していくこと。・現在、空白に近い地域に新たな地域図書館をつくるか、移動図書館を復活し、利用できなかった地域をなくしていくこと。</p>	
140	<p>貸出数、予約冊数の実績は、基本的な図書館サービスを市内全域の市民に行き渡らせてきたこれまでの図書館行政の土台の上にある。市民一人ひとりの読書環境を醸成することが図書館としての基本的な役割で、今後も果たしてほしい。</p>	
141	<p>本を手にとって選ぶことをどのように考えているのか言及がない。コミセンで予約して・・との代案か。7 館プラスコミセンで・・ならサービス充実でわかるが、本はカタログチョイスするものなのか。</p>	
142	<p>多摩市は貸し出しサービスは、全国でもトップクラスをいく仕事をしている。多摩市の図書館が営々と努力を重ねられてきたことを、誇りに思い、職員に敬意を表す。しかし、この「振興計画」では、利用の 30%がうち捨てられてしまう。読書の振興には繋がらない。また、名称は「読書振興」であっても、内容は「図書館システム再構築案」。この 2 年余り「振興計画」を再々「修正」してきたことから、さらに大きく転換して、7 館構想での見直し、書き直しを求める。その際には、策定委員会の構成も見直し、図書館利用者、市民の代表と「子ども読書活動推進連絡会」の代表も加える事を求める</p>	

143	市民は「図書館全館で均一サービス維持」を頑なに求めている訳ではない。拠点館への集約ありきではなく、地域図書館の存続を前提に、それこそメリハリの効いた検討をするべきである。	
144	3月には決定ということではなく、懇談会やパブリックコメントで出された市民の大きな存続要望を大切にして地域図書館の存続を位置づけた計画の見直しを図ることを要望する。	
145	「計画書」は、読書活動振興の表記がありながら、中身は衰退させる計画書となっている。読書活動を振興し、推奨する立場を表明する方々の計画書とはいえない。読書欲の強い多摩市民の読書活動の実態を踏まえ、文字通りの振興計画に相応しいものに、全面的に書き換えることを求める。読書活動を振興しようとするなら、まず、なぜ多摩市が全国でも有数の図書館利用率に成っているのか、その理由や根拠を分析することから始め、「計画」にあたる必要がある。計画書には、その一番大事な点、地域館が果たしている役割など重要な視点が全く欠落している。	
146	読書活動の裾野を地域に広げる最大の役割を果たしているのは、地域館ではないか。その地域館の重要性を否定するような読書活動振興計画はあり得ないということを前提にして、市民参加で計画を練り、立てるべき。7館を3館にする方向での計画は、「振興」の名に値しないので、撤回し、再検討することを求める。	
147	一見、これまでの地域館廃止計画見直しの市民の要望運動に配慮しているかの記述になっているようであるが、目指すべき姿も計画の方向性も、地域館廃止と3館集約を前提にしたものに変わりない。地域館廃止案の見直しを求める市民や利用者の声を無視したものになっている。	
148	「現状を存続していくことはもはや不可能である。」という結論からこの振興計画は作られている。3館を拠点としていくら充実させたとしても市民の要望に応えたことにならない。逆に、運営方針の 1.だれもが使える図書館 2.子どもへのサービスの充実 3.市民や地域に役立つ図書館 からかけ離れることになる。	
149	・個人貸出冊数が第2位、予約受付件数が第1位→こんなに市民に利用されているのに、図書館を4つも削減する市の方針は理解できない。・地域の課題解決に役立つ「これからの図書館」が求められる→そのためには、地域の図書館がこれからも必要なのではないか	

150	現状分析では多摩市の図書館行政が誇れる内容がたくさんある。それをあえて地域館を縮小とするのは、課題解決型に変えるところがあるが、拠点館を充実することでできるのではないか。	
151	いつでも、どこでも、だれでもが具現化したのが“地域館”であるのに、その利点をすりかえ、「図書館が分散してしまっているため一度の来館で必要な資料が得られず・・・」とマイナスにとらえている。多くの市民の願いをないがしろにしている。	
152	地域館で分散してきたサービスを新たな本館と駅前拠点間に集約することが、図書館として求められています。→このようなことが図書館に求められているとは論理的に理解できない。結局、地域で利用してきた高齢者や子どもなどの利用は切り捨てるということである。	
153	以上のことから、地域館で分散してきたサービスを新たな本館と拠点館に集約させることが、図書館として求められていますと結論づけている。どうしてこうなるのか。一体だれから求められているのか。	
154	11 行目“一度の来館で必要な資料が得られず”と分散が原因になっているが、分散が優れた一面もあり、“おはなし会”はその典型ではないか。	
155	全国1・2位の利用実態評価指標が示す「現在の多摩市図書館システムの優位性」を如何に継承・発展させるかと言う計画になっていない。自己矛盾を含んだ内容となっている。例えば、13 ページ「課題」項で、いきなり「地域館の集約ができるかどうか」が問われています」と述べられている。また、14 ページ「第1／1」項で「地域館で分散してきたサービスを新たな本館と駅前拠点館に集約させることが、図書館として求められています。」とされるが、何れも、それらの前段の文章からは大いなる論理の飛躍と言え、こじつけに近い。図書館システム全体での施設総量縮減、総費用縮減を提起するならまだしも、何故いきなり「地域館の集約」か？新たな本館と駅前拠点館に集約したら、全治の維持管理費縮減になるのかさえ示されておらず、不明である。真面目で真剣な議論になっていない。	

156	<p>1の後段「図書館が分散してしまっているために一度の来館で必要な資料が得られず・・・果たせていないという問題」これは分散しているためというより、多摩市では「分館整備を先にして最後に中央図書館をつくる」という図書館計画で進めてきたのに、核となる中央図書館をつくらないまま現在まで来てしまっているため。分館しかなく、各館に分散しているのは当然で、問題のすり替えである。館を減らすことは全く別問題。きちんとした中央図書館(として機能する図書館)をつくり蔵書を集約していく方向性はいいが、だから拠点館3館にまとめていく、という方向は納得できない。状況によっては地域館の規模を縮小するなど、館によりメリハリをつけることは考えられるが、あくまでも廃止するべきでない。</p>	
157	<p>この計画書の2ページ目の最後の段落に国からの「望ましい基準」がある。その基準に関連して14ページ目の「1. 暫定活用も含めた施設の老朽化」の最後の二つの段落は、地域図書館を廃止するためのこじつけのように読める。</p>	
158	<p>暫定活用も含めた施設の老朽化「本館整備を合わせ、地域館を廃止する方針」「地域館で分散してきたサービスを新たな本館と駅前拠点館に集約させることが、図書館として求められています」⇒市民はサービスの集約を求めている。1万5千以上の反対署名の意見を無視するもの2. 資料費の確保と人件費⇒分散システム維持の方針を前提とした上での具体的検討と改善案が出されたかどうか疑問。7. 図書館の運営に対する指摘⇒あくまで3館への集約案を前提にした計画の理由づけに終始している。</p>	
159	<p>「一度の来館で必要な資料」が得られるようにするために必要なことは、本館を充実させることで事足りる。何故、わざわざ「地域館…を…集約させること(縮小・廃止)が、…求められます」となるのか。このような、縮小・廃止せんがためのこじつけの論理や記述から成り立っている「計画書」こそ廃止して、まともな「振興計画」に作りかえることを求める。</p>	
160	<p>国の基準と比較した多摩市のサービスの現状と課題について・「貸出サービス等について」には、非常によく利用されているとあるが、地域館の廃止により、この利用率の低下につながる事となる。これは多摩市の図書館システムの最大の課題となる。・サービスの各種ギャップについて、利用率の低下(図書人口減)</p>	

	を考慮しない限り、読書活動振興計画の目標は体をなさず、読書人口の「減退計画」とならざるをえない。	
161	P.22 運営面 項番1における今後の方向性について「拠点館を補完する機能の検討」とあるが、具体的検討(ex. 候補場所、設備、業務内容、人員配備、運営等)の提示がない。地域館廃止による地域の不利益の考察に欠ける。	
162	だれもが使える図書館を実施しようとする、p.40の再構築のイメージでは成果が上がらない。理由は永山までは不便で、障害者、高齢者、子どもたちの利用が減る。図書館利用率 30%を占める地域館を失うことは図書館効率が下がる。	
163	「取り組み」(24 ページ)で掲げられる五つの柱は、どれも「地域図書館の廃止、本館と拠点館への集約」案とは本質的に相容れない。現在の地域図書館利用者3割の切捨ては達成が見通せない課題ばかりである。	
164	市立図書館の基本方針・運営方針の(1)で、「だれもが使える図書館」とし、「身近なところで気軽に利用できる図書館を目指します」と掲げていることと、拠点館3館に集約していく方向性とは矛盾する。図書館を使えない、又は使いにくくなる人が増えてしまう。	
165	先日も、聖ヶ丘図書館では、越してきたばかりと言う、赤ちゃんを連れのお母さんが絵本を探していた。高齢化するばかりでなく、若い世代の住民が増えていくのが地域。自分の住む地域で、本があるだけではなく、子どもとともに児童サービスのある図書館で、読書の楽しさや大切さを体験したり、市民一人ひとりの課題解決に役立てたりできるのは地域にある図書館である。	
166	「基本目標(1)だれもが使える図書館」について「本館を中心にした分館及び分室を運営」して「だれもが使える図書館」と言いつつ、地域図書館の廃止計画にリンクした取り組みについての言及が見当たらない。	
167	取り組み1 より利用しやすくするための配慮 乳幼児を連れ保護者の利用を配慮して、書架の工夫→地域の図書館を廃止したら乳幼児を連れ保護者は行けない。	
168	子どもへのサービス→地域の図書館が廃止されると、距離が遠くなりほとんど実施できなくなるのではないか。	

169	子どもへのサービスの充実(p30)は最も大きな柱のひとつ。子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的な読書活動ができるようにしなければならない(p31)。次世代を支える健全な若者の育成なくして将来の多摩市はない。	
170	課題解決型図書館などの新しいサービスは、現在のサービスに取って代わるものではなく、ベーシックなサービスに+アルファされるべきものではないか？新しい本館なりの発展課題であって、二者択一的に地域図書館廃止の犠牲の上で考えることではない。	
171	高度なシステムや豊富な資料を備えた中央図書館(本館)よりも、地域の子供、主婦、老人等が日常的に利用できる文化施設としての地域図書館が多摩市では必要。	
172	「基本目標(5)弾力的な管理・運営」について。取り組み 11 本館の機能強化で、「新たな本館を整備することにより、これまでの貸出中心のサービスからこれからの図書館に求められるサービスへの転換に取り組む」⇒市民が図書館に求める基本的サービスの低下に結びつく取り組みの上に計画されるのであれば、多摩市の新たな中央図書館の整備は意味をなさない。	
173	「方針転換」の理由に、施設老朽化や人件費の問題を挙げ、“財政負担が重くなる”“必要な維持管理ができなくなる”としているが、最も負担が重いのは本館であり、その維持の為に、まだ老朽化していない唐木田や聖ヶ丘を含めた地域館の閉鎖は納得できない。図書館年間費用約 6.4 億の 74%を占める人件費は、4館閉鎖で約 1/3 の人員減となるが、本館のサービス充実の為に人員増は何人か。施設費や人件費など相殺すると、いくら節約になるのか等。財政面の説明が無い。聖ヶ丘図書館は、地域のお年寄りや子供が歩いて気軽に行ける図書館として利用されてきた。本館や駅前拠点館がどんなに充実されても、本数の少ないバスや電車利用では図書館が遠のくのは必定。他の地域も同様である。「読書活動振興を支えるサービス」として縷々説明しているが、障害者、高齢者、乳幼児を連れた保護者、いずれも最大のサービスは図書館が近くにあることである。地域図書館縮小方針は、「読書活動振興計画」の表題に対して論理的矛盾がある。	

174	<p>拠点館の説明がデータ数的になされ過ぎている。近年、豊ヶ丘や関戸図書館において購入図書が減っているように感じる。そうすると永山図書館へ行く頻度が増してくる。新規購入本を借りられる機会が多い拠点館で借りることが増え、拠点館でしかないものを見に出かけることも増えている。このような利用は拠点館の利用の近辺利用率にデータ化されて、動的把握が欠けている。単純な利用率では地域館の利用者の行動が抜けている。</p>	
175	<p>地域図書館を廃止して「身近な施設を活用して拠点館を補完」とされているが、補完サービスの形も内容も見通しも曖昧なままである。廃止した地域館の代わりに貸出サービスステーションの様なものを置いた所で利用者が望む所でないことは、p.40 の図が書き換えられたことから、案の作成当事者はよくわかっているはず。</p>	
176	<p>本計画のエッセンスとも言うべき 40 ページの図は、次の様に変更されるべきと思う。現【拠点館を補完する身近な場所】⇒新【身近な地域館】現(拠点館を補完)⇒新(地域と高齢化時代のニーズに応える)</p>	
177	<p>地域館の整備は、貸し出し数にも現れており4分館で30%近くを占めている。お年寄りや小さなお子さんを抱える方、子どもたちにとって、身近にある図書館は利用者のために非常に役立つ存在。ところが、振興計画では(p40～p41)4つの地域館を拠点館の補完と位置づけ「新聞・雑誌、子どもの本や行政資料、読み物などの蔵書」としている。これはこれまでの図書館運営の「だれもが使える図書館」「市民や地域に役立つ図書館」他とは大きく変わるものといわざるを得ない。分館の果たしてきた役割を考えれば、唐木田図書館をはじめとした地域館の廃止削減につながる提案には納得がいかない。</p>	
178	<p>本館を作る(費用)ために拠点館を廃止するなら、そのあるべき姿の根本的な所からの議論が必要になる。何が望まれているのか、もっと市民の意見を聞くべき。</p>	

179	<p>図書館法によって、住民の生活圏、利用圏に十分に考慮し、面積、地形、交通網に勘案して適切な位置に設置された「地域館」を廃止する道以外は模索できないのか？代わりに「図書館機能の全域サービスが担保できる」「拠点館を補うもの」としてコミセンなどに蔵書をという案は、図書館機能サービスを十分に受けることにはならず、問題も生じる。図書館でない場所での貸出を図書館員以外の人が行えば、プライバシーの問題が生じる。図書館サービスのひとつにレファレンスサービスがある。これからの時代の高度な問題解決とともに、児童には年齢のニーズに応じたサービス、細やかなカウンター対応も行うことが大切。</p>	
180	<p>図書館サービスは分散から集約とされていますが、どの地域に住んでいても、同じサービスを受けられ、地域社会の基盤をなす図書館の整備を願う。</p>	
181	<p>全国と同レベルの市町村の中で、個人貸出冊数2位、予約受付数1位。利用密度図は、多摩市内ほぼ全域網羅されるなど、7館体制・地域分散型の図書館方針が生み出した成果が詳しく分析されており、関係者の努力に敬意を表す。しかし後段、「読書活動を支える運営」として“分散から集中”“本館の充実と地域館の縮小”への180度方針転換は、理解に苦しむ。</p>	
182	<p>聖ヶ丘図書館を無くし利用者を切り捨てるという事だが、無くすことには反対。この読書活動振興計画は、＜多摩センター近くに中央図書館を作る＞と言う大前提の前に結論が出ている。読んでみると1)6歳から11歳は移動手段が徒歩であるため、自宅に近い図書館を利用…これは聖ヶ丘図書館に住む高齢者に通じ、歩いていける地域の図書館がこれからますます必要。多摩市の地域課題である高齢者問題を切り捨てることになる。</p>	

183	<p>「図書館の目指す再構築のイメージ」について・再構築の計画が、「分散から集中への転換」の大前提で策定されている。・「施設の老朽化対応と資料や職員の集約」を主たる理由として、本館の充実と地域館の廃止がセットで進められていることに変わらない。・中央図書館の整備が、「図書館の仕組み全体の見直し」として現在の分散システムの廃止と抱き合わせの計画となっている。本来、中央図書館の整備は、図書館整備計画として、分散システムの充実と並行して一貫して検討されてきた。これまでに構築されてきた分散システムによって、多摩市が誇るべき市民による図書館利用の高い成果に結びついている事実を重視すべきである。・課題への取り組みや読書活動推進計画を謳いながら、分散システムの維持発展の方向性を模索する視点からの改善策の検討や提案がどれほどなされたのか疑問である。・今回も、「地域館については、図書館機能のサービスが担保できるように、地域にある身近な施設と連携し、十分な対応をしていく」としながら、施設面からの整理については、あくまで「多摩市公共施設の見直し方針の行動プログラム」の更新の中に、計画の方向性を反映していきます」として、地域館廃止の方向性が維持されたままである。</p>	
184	<p>中央図書館の整備が、“図書館の仕組み全体の見直し”として現在の分散システムの廃止とのセット計画となっている。中央図書館の整備は、図書館整備計画として、分散システムの充実と並行して一貫して検討されてきた。これまで構築されてきた分散システムによる誇るべき図書館行政の事実を重視し、成果にもっと自信をもち、推進していただきたい。</p>	
185	<p>40 ページに、「図書館の目指す再構築のイメージ」を図式したうえで、「※施設面からの整備は、別途『公共施設の見直し方針と行動プログラム』のなかで明確化」と結んでいる。イメージ図の解説中の、中央図書館設置等と新たな本館整備の記述については、おおむね異論のないところである。しかし、「新たな本館に集約」とか「拠点館や地域館から集約」することを計画記述したうえで、地域の公共施設の縮小と削減を目的としている「公共施設の見直し方針と行動プログラム」に「本計画を反映してゆきます」としていることは、「読書活動振興計画」とは名ばかりで、実は市の公共施設削減計画に同調せんがための計画書を、苦虫をかみつぶしながら教育委員会がつくったのではないか。</p>	

186	<p>少子高齢化のもとでは地域館こそ必要。多くの市民が利用できるのは地域館であり、どんな利用の仕方をするかを選別するのはおかしい。</p>	
187	<p>地域館を残してほしいのは当たり前。ただ、建物に頼るのではなく内容こそが大事という視点から、たとえば地域館がないとしたら、かわりにどんなしくみが必要となるのかも、並行して考えてみたい。次の世代のために、今よりもっといいしくみを生み出すチャンスかもしれない。</p>	
188	<p>本館が移る場合配本・返本を図書館以外でできるポイントを各地域に設置する。たとえば、現在の分館にその機能だけは残す。さらにコンビニ・スーパー等の小売店との提携で時間制限も少なくなる。</p>	
189	<p>図書館の全域サービスが担保できるように→地域館を廃止して、どうして全域サービスができるか。</p>	
190	<p>財政上の問題といいながら、人件費の比率を平成 27 年度実績約 80 パーセント、それを 4 年かけて平成 32 年度末で 75 パーセントの目標という悠長ともいえる解決方法。この振興計画を読んでもての結論として立派で大きな中央図書館を作り、身近で目立たないこの小さな図書館を無くし、高齢者の住むこの地域の図書館の利用者を切り捨てるのではないか？</p>	
191	<p>48～49 ページの利用実態調査みても、地域図書館のニーズは高いことが解る。また、地域図書館と言っても夫々状況が違う。本当に「地域図書館の維持」が死活的問題だと考えているなら、地域図書館4館を一纏めにせず、もっと個別具体的で精緻な検討と提案をするべき。地域図書館は、今後の少子高齢化社会の中で、地域活性化の要の一つとなる大切な存在である。「高齢化時代の背景の中で、地域のニーズにどの様に応えるべきか？」を真面目に検討すべきではないか？</p>	
192	<p>3館で個人貸出冊数の70%を占めていると書かれているが当然で、だから駅前拠点館だけを立派にすればよいということにはならない。もちろん駅前の3館をより使いやすく、充実した図書館にしてほしい。この文章を読むと不便なところに住んでいる者がまんしなさい！ととれる。</p>	
193	<p>この計画書の50ページ目の二つ目の表。この計画が実現すると30%の利用者が困ることが読める。それで良いのか？</p>	

194	7 割の方が、本館、関戸、永山を貸出で利用している。→残りの3割は切り捨てるのか。	
195	分析が、最も顕著である地域図書館利用者が p.48-49 で明らかのように 6～11 歳の学齢期の子どもなのに、一言もふれていない。学齢期の子の放課後の過ごし方で、地域図書館の役割が高いということでもあるし、振興したい”子どもの読書”からも、評価するのが当然なのにプラス評価を避けている。	
196	高齢になって図書館に来られなくなる方々のニーズは何か→歩いていけるところに図書館があることこそ、高齢者のニーズではないのか。	
197	「分散型」を展開してきた多摩市の図書館政策こそ「文字・活字文化振興法」にもとづく「読書活動振興」に適合している。「文字・活字文化振興法」第3条(基本理念)が本来の「読書活動振興計画」の目的で、多摩市でこれまで地域館を整備してきた歴史はまさに「居住する地域にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備すること」そのものだったと言える。多摩市の4つの地域館は、地域住民の間に図書館への信頼感を生み、高い読書人口を生み出してきた。	
198	地域図書館の充実による、読書する静かな環境の図書館への期待の高まりがある。利用して比べている方は聖ヶ丘図書館が静かな雰囲気を保っていて一番いいと語っていたことから、図書館の配置は必ずしも、駅のそばなど一般の利便性を基準にしてはいけなとわかった。市内のどこに住んでいても、日々の生活の中で利用できる信頼のおける地域図書館の存在は、まさに読書活動を推進する重要な要素である。	
199	7 館体制(行政資料室以外)の維持を明言してください。地域館である4つの図書館を縮小する案は「読書活動」の振興とはまったく逆行する案である。今ようやく7館体制になって市内の比較的多くの地域で図書館を利用できる条件が整い、読書を楽しめる地域図書館が実現しかけている。	
200	地域館の継続を見通した修繕計画と資金積立計画の開始。読書活動振興にとって重要な役割を果たしている地域館(関戸、永山を含めて6館)を長く合理的に維持できるよう修繕計画と、さらにいずれ来る改築の時期までに各地域図書館の改築費用を賄うための積立計画をたてておく必要も明記してください。	

201	読書活動の振興にとって、地域館は不可欠です。「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」に記されている地域館 4 館の廃止を撤回するよう提言してください。
202	いまや、戦後 70 年を経た平和憲法が現政権の安保法制強行により、極めて危険な状況にある。一方、各方面の方々から、読書離れや反知性主義的動向に警鐘がならされている。また、インターネットによる情報に偏りつつある情報収集の問題がクローズアップされている中で、市民の知る権利を保障するための公共図書館が民主主義をすすめる拠点として果たすべき役割は非常に大切になってきている。非核平和都市宣言をし、平和を希求される阿部市長の下での多摩市における社会教育行政の中心的課題である教育部門の、市立図書館の現行体制を維持発展させる事は、何よりも重視すべき重要課題であると考えます。
203	ひじり館ロビーに設置している、存続を求める住民の声は、いまだに衰えず、あっという間に 60 人を超えた。150 人を超える 2 回の行政との対話集会や 4787 筆に上った市長への「要望署名」は地域に密着し、幼児から高齢者まで大切に利用され続けている聖ヶ丘図書館の姿が浮かび上がっている。やまばと号の到着を待ち、周りを親子が取り囲んだ日々から今日まで、営々と築いてきた素晴らしい多摩市の図書館行政をここで後退させず、「みなさんの声を重視します。最終案ではありません」の言葉を文字どおり実践することを期待する。
204	地域図書館で分散してきたサービスをなぜ、新たな本館の再整備と課題にすりかえてしまったのか。現状維持も考えずに廃止とは。図書館を利用する住民の立場を無視した行動である。地域図書館は、ふだん気軽に立ち寄れる居場所として幼児からお年寄りの歩いて行ける場所にあるからだ。これまでの署名活動と今回の懇談会が一步でも存続に反映できるよう願う。
205	福祉サービス施設を設置し、図書館スペースは減らし図書館の看板は外すとか声が聞かれる。たとえば、地域包括センターを聖ヶ丘にもってくるのだったら、コミセン・図書館以外の場所を考えるべきだ。コミセンは子どもがあふれ、大人・高齢者の居場所は減り、図書館に支えられている。聖ヶ丘は公共施設が不足していると思う。現在あるコミセン以外に福祉機能施設が必要であるなら、借り上げなど工夫していただきたい。セコイことは考えないでほしい。

206	<p>第三次多摩市生涯学習推進計画を実現するためには、コミュニティとしての図書館の役割が大きな力になっている。聖ヶ丘図書館は連光寺・稲城市からも多数の利用者に喜ばれている。これは、この地域に図書館と食料品店、コミュニティセンターが一体化しているということもあると思う。しかし、この地域の公共施設は他の地域に比べると市内で一番少ない。地理的にも山・坂の起伏が激しく交通条件に恵まれない地域でもある。そのような条件に対してこの計画はなお一層、マイナス条件を与える。</p>	
207	<p>だれもが使える図書館”を実施しようとする、P.40 の再構築のイメージでは成果が上がらない。理由は永山までは不便で、障がい者・高齢者・子どもたちの利用が減る。図書館利用率 30%を占める地域館を失うことは図書館効率が下がる。近くに桜の丘学園があるが、利用が遠のくのではないか。</p>	
208	<p>“新たな本館”イメージと巻末資料にある“中央図書館建設”という考えは、違うのか、同じことなのか。本館という場合と中央図書館という場合では、内容的にも理念的にも違っていると認識しているし、規模的にもイメージも大きく異なる。やまばとホールに隣接した本館が西落合中に臨時的に転居して、改めて移転する必要性は承知している、例えば、本館が長男であり他は地域に根ざした次男、三男というイメージである。しかし、“中央図書館”では中央図書館が親であり、他はこどもたちというイメージである。それを“新たな本館”と言いながら中身を“中央図書館”のような説明をどうしてするのか。しかも弟たち 4 館を切り捨てて。諏訪図書館から永山図書館になった時は四男が次男に昇格したイメージだった。この考え方の範囲でいいではないか。長男の本館の新装開店に際して、表面に出ない蔵書庫の拡張・防火設備の強化や表に出るサービス面・運営面の改善が伴うとしても、“中央図書館”的考え方でなく、本来の本館の範囲でいいではないか。財政面でも抑えられる。</p>	
209	<p>唐木田図書館の存続</p> <p>①居場所の確保 不登校の子供達だけでなく高齢者にとっても居場所として必要。しかも「近く」でなくてはならない。なぜなら、車の運転も不可となり、徒歩も困難となれば、何よりも「近い」が重要。</p> <p>②企業化 新しく企業を立ち上げようとする場合、マーケティングや法律の問題などを解決する場、それが図書館</p>	

	<p>③知の宝庫 “知”が無くて安全・安心な生活や“まちづくり”は不可能。『知』は人間が生きていく上で最も大切なもののひとつだ。</p>	
210	<p>私は現在 20 歳ですが、図書館には今でも時間があれば行きます。それは、いつも小さい頃から身近にあったからではないでしょうか。現在は駅近くの関戸図書館を多く利用しますが、小学生の頃は学童、児童館と一緒にあった東寺方を利用していました。利用者、本の貸出数、様々な面で廃館が決まったのだと思いますが、子供の身近に図書館があることの意義は大変大きなものだと思います。それが10代20代の図書館利用にもつながるでしょうし、心豊かな地域につながるものの一部になるものだと思います。どんどん身近な図書館がつぶれてしまうのはさみしいですね。</p>	

⑥ 現状の図書館の機能やサービスほかのご意見への対応

以上のご意見のほか、現状の図書館の機能やサービスについて、人員配置についてなど、ご意見をいただきました。

それぞれのパブリックコメント等への対応については、以下の通りです。

項番	ご意見	コメントへの対応等
1	貸出中心だった中で、できなかったことをこれからやっていきたいと言っているが、地域資料の提供や、子どもへのサービス、市民や地域に役立つ図書館としての機能を拡充していく等、今までの中でできてきたことはあった。図書館は資料も大事だがやはり職員が大事だ。職員を系統的に育てることを積み上げて努力してくれば、職員体制は築けたはず。館長が3年くらいで交代する体制では職員は育たない。正職員を減らしてきて専門職が育っていない。その中で唐木田図書館を民間に委託するようになり、そのような負の発展があったが、これから系統的に頑張れば7館体制でやっていけると思う。	職員の育成は大変重要なことだと考えます。この計画の「取り組み13」でも、職層ごとの役割の見直しや研修等による長期的育成をすることとしています。
2	教育委員会は専門職を系統的に育てるという感覚がなく、長年の責任は問題で、そのことについて何も書いていない。多摩市の行政の何もやらない無責任体制が、今日の図書館行政の混乱を招いている。教育委員会は反省していただきたい。	職員の育成は大変重要なことだと考えます。この計画の「取り組み13」でも、職層ごとの役割の見直しや研修等による長期的育成をすることとしています。
3	地域課題の解決に役立つと書いてあるが、必要がなぜあるのか。だれが地域課題を見定めるかということで、図書館の良さは誘導的にならないで知る権利を保障することであるから、国の政策はあるが、多摩市は読書活動振興計画では書かないで見直してほしい。	地域の課題の解決に向けて市民が参画できるよう様々な資料提供をすることは、市民にとって必要なことだと考えます。また、図書館としての資料収集と提供にあたっては、地域課題だけに片寄って行うということではなく、幅広く収集していきます。

4	<p>図書館の目標が「今までは貸出」というが、本を読むのが楽しい、ここに来るのが好きというのが軽視されている気がする。目的がないと図書館が使えない、何かを調べなければだめという文面を感じる。図書館で本に触れて、見て、探して読んで、ここ(東寺方図書館)にくることが楽しいという気持ちは生きる意欲に繋がると思う。</p>	<p>図書館の機能の中で、貸出は重要であり、これまでも活動の重要な指標とされてきました。貸出を否定するものではなく、他の機能との対比で表現しているものです。</p>
5	<p>資料費は市長が変わった時に大きく減らされていて、政治的意味合いもあるのではないかと。人件費が多くを占めているから資料費が少ないと言うことについて、もう少し具体的にデータを出してほしい。</p>	<p>人件費と資料費に関連があるのではなく、図書館費に占める人件費の高さと、同一規模の他団体と資料費が比較的低いことから、資料費の確保を課題としています。</p>
6	<p>6 蔵書の適正管理 のところで水濡れ、書き込みや汚損のことが書かれていて市民が悪者に見える。全国どこの図書館でも抱えている課題だと思うがここで書くほど大きな問題なのか。</p>	<p>資料の汚損等は、他の図書館とも共通する課題だと認識しています。</p>
7	<p>ビブリオバトルをやるのは良いが、読書会に集団貸出をしてほしい。財政的に厳しいとのことだが、以前はやっていた。</p>	<p>読書活動振興という意味で、読書会の支援は、資料費の確保とともに今後の検討課題とします。</p>
8	<p>現役世代がある程度都心に勤めていることを考えると、20 時くらいまでの開館は早急に進めていただきたい。祝日に本館が休みであるが、祝日休みはもう主流ではないのではないかと。祝日の場合は翌日休みなどはどうか。図書館とは違うが行政サービスコーナーのように、現役世代にもっと利用してもらうためには土日祝日は 19 時、平日は 20 時くらいまで開館してほしい。職員の勤務時間を長くするのではなくて、早番・遅番体制にすれば勤務体制もとれるのではないかと。貸出時間の延長はやろうと思えばすぐにできることだと思うので、可能だと思うのでがんばっていただきたい。</p>	<p>開館時間の延長や祝日における本館の開館については、本館の再構築の中で検討します。駅前拠点館の開館時間についても併せて検討し、できることから着手します。</p>

9	図書館の質を維持していくためには、ボランティアが活躍できる部門は限られていると思う。専門的な水準を維持していかないと、図書館としての機能は発展していかないのでは。	障がい者サービスやおはなし会などの分野で、ボランティアの方に支えられてきました。どのような分野でお願いすることが効果的か、今後検討します。
10	正規職員がしっかり土台を築いていけば若い職員が育ってくると思う。非正規の方が多くなると責任の所在が難しくなるので、非正規の人を少しずつ減らして、専門職の人を増やすことを地道にやっていただくことが図書館の質を守るためには必要。	職層ごとの業務内容を考え、専門性の確保、業務の効率化などを考えながら、職員の育成についても検討していきます。
11	東寺方図書館の運営は間に合わせな感じがする。関戸と東寺方の館長を兼ねている人が応援に来る、というやり方ではなかなかその図書館が発展するのは難しいと思う。	東寺方図書館については、現在関戸図書館との親子館の位置づけで運用しています。支援体制については、今後も検討していきます。
12	ボランティアの方は、秘密は守れないのではないかと。いままでいろいろなボランティアの形で市民の中で協力してきて、これからも発展させていくのはあると思うが、図書館は専門の職種を職員が意識してやる部門だと思う。	職員が担当する仕事とボランティアの方をお願いする仕事については、導入にあたっては慎重に検討します。
13	IC タグの導入について、プライバシーがどうのこうのという問題ではないのではないかと。プライバシーは職員が守らないといけない問題で、徹底していかないとおかしなことになるのでは。IC タグが入ったからプライバシーが守られるとか守られないという問題ではない。そういうところはきちっとしてもらいたい	プライバシーを職員が守るのは基本です。ICタグの導入は、効率性を高め、職員が貸し出しに追われるような状況を解決することが主な目的と捉えており、プライバシーの観点は副次的なものと考えています。
14	自動貸出について、貸出を受ける者のプライバシーを守るためにも必要なものであると。専門職の方はたくさん入ってほしいが、ただ貸し出しのためのアルバイトは減らせると思う。	ICタグの導入は、効率性を高め、職員が貸し出しに追われるような状況を解決することが主な目的と捉えており、プライバシーの観点は副次的なものと考えています。

15	TAMAMIRAI(多摩市民まちづくり討議会報告書)に対して、ちゃんと反映させていくという話だったので、図書館の実施状況を公表して市民に見せていくべき。	計画とその推進状況について公表する方向で検討します。
16	収集方針をちゃんとしてほしい。「資料収集要綱」はあるがあまり詳しくない。利用者懇談会等でテーマにして市民に問いかけても良いのでは。寄贈についても、他の図書館では「5冊以内」などもう少し細かく決まっている。選書について、迷ったところは図書館協議会にかけることで境界が見えてくると思うので、そういうなかで収集方針が詳しいものになっていくと良い。	収集方針については、今後検討の検討課題です。
17	図書館を30年利用していて、第一線の図書館の方々は非常に親切。人件費が増えてるからといって、図書館活動する人が萎縮するのは図書館教育のためによくないと思う。図書館活動の中では、人件費というのは多くかかっても当たり前なんだという発想を館長さんは根底に持っていただきたい。	図書館の運営には人材が必要ですが、限りある財源の中でのやりくりは必要と考えます。
18	図書館の役割には当然課題解決型の役割とレファレンス等、貸出という両面があるが、現在、多摩市の図書館は、貸出という面が中心になっているとあり、全国的に見てもかなり高い水準を示しているということは、それによって得たものではないか。それをさておいて、課題解決型という、国あたりの方で出てきたものについて、それを否定するものではないが、そういうものだけに終始して、読書活動が盛んになるわけがない。	資料の貸出も重要な機能ですが、レファレンス等による課題解決という視点も必要だと考えます。課題解決などの機能に特化するものではありません。
19	子どもの読書は読み聞かせなど、声を出すことがすごく大切だと思う。でも図書館は静かな所で声を出すのが普通なことではない。その乳幼児を連れてお母さんが、配置を換えるとか、ひそひそ声でしゃべるということではなく、声を出す場所、声を出せる場所が図書館にほしいと常々思っている。外からの声が遮断がされ、声を出せる場所が欲しいなと思う。	児童コーナーの配置や、児童コーナーへの家族向けの本の配置などについても検討していきます。

20	<p>現在の本館の休憩室について、女の人がガタガタ震えながら食事をしていました。暖房も冷房も効いてないというような中で、私たちが図書館を利用するときには手弁当で来る方も結構多いので、休憩室のコーナーだけでも間仕切り程度のものと暖冷房はそれほどに費用がかかるものでもないと思うので設置していただきたい。絵本の読み聞かせも、間仕切りをして、他の方たちの迷惑をかけない程度のボリュームでお話ができる場所があったらいいと思う。</p>	<p>現在の本館は学校の校舎に最低限の改修を施したもので、設備面での不十分さがあります。今後の検討課題とさせていただきます。</p>
21	<p>老朽化や職員の問題が出てきたが、職員は養成すればいいことだ。後継者を養成してこなかったからいけないのではないか。そういう人がいないから縮小するという、縮小のための話になっている。それと振興が結びつかない。</p>	<p>職層ごとの役割の明確化や研修の充実に取り組み、職員の育成に努めます。</p>
22	<p>東寺方図書館が平成 22 年から試行と書いてあるが、試行期間は何年なのか。平成 22 年からと書かれてしまうと長い気がする。</p>	<p>東寺方図書館の嘱託職員主体による運営の試行については、試行後どうするのか、今後明確にしていきます。</p>
23	<p>サービスポイントを住民が運営するという話が出ているようだが、住民のボランティアや協働は自分からやりたいからやるのは良いと思うが、行政のほうからやってくれというのは筋が違うと思う。貸出や本の整理を一貫してやってほしいとか、人員が足りなくなるからそれを補完してほしいとかであれば、行政は行政としての責任をちゃんとサービスの体制を作ってやっていくということが基礎になっていけないと思うし、その意味でこの計画の中の協働というのは怪しげで、私は賛成できない。年齢が高くなるとボランティアも思うようにいなくなってくる。調布市の図書館は市民のボランティアを週 2 回を限度としていて、それくらいのテンポでやれる、図書館を見守っていくぐらいのものだと思う。短い間であれば良いが、長く 10 年 20 年とやっていくには大変である。</p>	<p>ボランティアの方に参画していただくことについては、どのような分野が良いのかも含めて、今後検討していきます。</p>

24	運営計画を市民に公表してほしい。市民の評価と図書館や行政の評価が図書館で公表されることが今までされて来なかったから、図書館が市民に親しみを持てるようなものとして映ってこなかったのではないか	取り組みの中にもあるように、今後は事業計画の公表と評価に取り組みます。
25	図書館のようなところは人が必要であり、人の予算はそんなに削れないと思う。図書館はボランティアも必要であるが、専門的な知識が必要な分野なのでその辺でひとを削っていくのはしないで欲しい。時間も出来るだけ利用しやすい時間にしてほしい。ただ図書館があれば良いというだけじゃなくて、みんなが利用しやすいように、休館日を増やすとか、時間を減らすとかいう方向での解決の仕方はしないで欲しい。	地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。人件費の面での工夫についても、サービス低下せずに行えるかどうか、今後具体的に検討していきます。
26	市民サービスには人が必要であり、人件費は当然かかると思う。図書館の運営費の中に人件費が74%もあるという感じの捉え方は変だと思う。給食センターが人件費が多くを占めているということでひとつ民営化されたが、人件費を図書館なら図書館、給食センターなら給食センターって考えるのは変だと思う。	図書館サービスに人は必要ですが、効率化して節約できるのであれば、その分を資料費などに充てることで、サービスが充実できるのではないかと、との考え方です。
27	最近、桜ヶ丘近辺の書店が2つ撤退した。新聞の定期購読者も減っているとのこと。こうした中で公立図書館が果たす役割は何なのか、重い課題だ。	文字・活字文化の振興という意味でも、公立図書館の今後について、サービスの充実と持続可能であることなど検討する必要があります。
28	全体として読書を振興していく内容ではない。	団体貸出や読書経験を交換しあう催しなどにより、読書活動を振興する取り組みを考えています。
29	職員について、一体今まで何をしてきたのか。こういうことは、恒常的に対策を講じてこななければならない課題で、「ベテラン職員が退職を迎える時期」だから大変だという問題ではない。あまりにもお粗末すぎる。	職層ごとの役割の明確化や研修の充実に取り組み、職員の育成に努めます。

30	平成 22 年から東寺方図書館で試行とあるが、試行期間が長すぎる。唐木田図書館の体制も再検討した方がいい。	東寺方図書館の嘱託職員主体による運営の試行については、試行後どうするのか、今後明確にしていきます。
31	情報システムの課題の記載がない。重要な課題だと考える。	情報システムについても、利用者向けホームページ機能の充実などの課題があると認識していますが、本計画では扱わず、別途検討しているところです。
32	市立図書館の抱える課題の 2 資料費の確保と人件費 3 職員の先細りでは、資料費の割合を高める必要がある。職員集団としての専門性の維持確保の仕組み作りの必要性を指摘している。ただ図書館業務ではそもそも機械化が難しい人に頼る面があるので、人件費そのものと資料費との割合を単純に比較することは意味が無い。ただ、財政の肥大化を和らげる手段として、人件費の圧縮などで嘱託職員による運営の拡大を進めることなど賛成ではあるが、常勤職員も年代構成を十分考慮した採用計画を立て、培った内容が世代継承されるよう考え、むやみに他部局への異動などが無いよう適正な人事配置を考えるよう要望する。同時に図書館事業に携わる司書をはじめとした職員全体の質の向上を図るために研修の機会を増やすという提案もその通りである。	職層ごとの役割の明確化や研修の充実に取り組みます。人員構成等については今後検討していきます。
33	この計画書の右側に書かれている「現状と課題」に次の文があります。ただし、図書館としての…公表や自己点検に至っていません。今後作られる計画に対しては、ぜひ「公表及び自己点検」を行っていただきたい。	今後はそのような取り組みを行うようにしていきます。
34	図書館職員の育成について書かれている。専門性の高い図書館員が育ちやすい、仕事のしやすい環境を作ってもらいたい。	そのような方向で取り組みます。

35	超高齢化社会において、高齢者の知識、経験が活かせるような体制を整えコミュニティ活動に活かしてもらうこと。こうした取り組みこそが、「皆が生き生きと暮らせるまち多摩市」を創造することにつながる。	ボランティア活動の促進などの取り組みの中で検討していきます。
36	急激に高齢化が進むのに高齢者に対する計画がない。	公共施設についてのワークショップなどでも、高齢者の居場所などが課題とされています。今後の検討課題とします。
37	10代の図書館利用率が低いのが気になる。教育委員会として具体策を市民に提言すること。	取り組み2に記載
38	p.51にも書いてあるように0から5歳は家族のカードを使うなどの状況が想像され、実態の数字をとらえていない。家族のカードを使わないように仕向ければ数字だけは上がる。年齢別の児童書・絵本の貸出状況をみればある程度実態の把握ができる。	実態の把握の仕方については今後の課題とします。
39	子どもの読書活動推進計画は、市民連絡会とも連携して第三次の計画をたててください。	第二次計画の実施と第三次計画の策定について、新たな本館の基本構想との兼ね合いを考えながら検討します。
40	利用者懇談会が今年度実施されないのは残念。やっと始まった利用者懇談会、このような時期だからこそ実施すべき。	27年度はできませんが、今後はテーマを決めるなど、工夫して毎年できるようにします。
41	取り組み7のTAMAICHIは紹介リストも作成されたとし、今でもホームページで見れる。	TAMAICHIを今後実施するかどうかについても今後検討していきます。
42	取り組み8関連行政資料の販売…市役所内売店はスペースが少なすぎる。各図書館で販売できないか。	在庫の確保など課題も多く、各図書館での販売は考えていませんが、パブリックコメントの実施場所とされていることや、行政課題解決に使える図書館という意味で検討の余地はあると考えます。

43	<p>提案:欠本、絶版などの本を市民から寄贈で充足して行く活動を進めることを提案する。理由:図書館の掲示板に多くの希望者が読みたい本のリストが掲示されている。それは市民が読み終えた当該の本の寄贈を呼び掛けていることになり、これは今後も継続して行ってほしい。研究テーマの関連図書などでどうしても読みたい本がある。しかし絶版などで購入の不可能なものが多い。それを補うために、市民に呼び掛ける活動を実行してほしい。現役を引いた専門家、先代が研究していて今は処分に困惑をしている家庭などに当該図書がある場合が多い。それを生かし、しかも限られた予算出費を抑えることになる。</p>	<p>図書館から必要なものの寄贈を求めたり、検索して所蔵がなく内容が古くなっていない研究書等の寄贈を募るなど、方法によって寄贈の拡大も検討の余地があると考えます。</p>
44	<p>開館時間について、永山図書館で予約図書の受取りのみ夜間延長を検討してほしい。</p>	<p>そのようなメリハリのあるサービスは費用対効果的にも有効と考えます。どこでどのような体制で行うか含め今後検討していきます。</p>
45	<p>図書館長は市役所職員ではなく、外部登用を提案したい。数年で館長が異動し、振興計画がきちんと運用されているかの検証が明確になっていない。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
46	<p>運営に関して全面的に業者委託した場合のメリット・デメリットを検討すべきである。</p>	<p>現時点では指定管理などの全面的な業務委託の具体的は検討は予定していませんが、直営で継続する上でも比較し参考にする必要はあるという認識です。</p>
47	<p>運営上の課題について人件費が高いので図書費が少なくなるとの理由で、有資格の正規職員が入れられないと言われているが、安定的に図書館運営をしていくには、有資格の正規職員を入れて、将来的に図書館を担っていく力量をつけられるよう養成しなければいけない。</p>	<p>有資格者の採用や配置と図書費とは直接関係ありません。正規職員と有資格の嘱託職員との役割分担や育成について明確化し、図書館を運営していく必要があります。図書館の人員体制の詳細については、別途検討していきます。</p>

48	<p>若者の雇用が社会問題になっているが、多摩市においても正規職員を減らすことばかりに力を入れ、非正規職員や外部委託の非正規労働者の人数が膨れ上がり、いわゆる官製ワーキングプアをつくりだすことになっている。唐木田図書館の業務委託は今後の多摩市の図書館運営を厳しくする要因になっている。一日でも早く直営に戻すべき。</p>	<p>この計画とは別に今後検討していきます。</p>
49	<p>図書購入費を平成7年度からみていくと、途中で削減されたり、浮き沈みが大きいのが、現在少しずつ増額されている。図書館法によって設立された公立図書館は、専門職の図書館員によって選書された資料が図書館員の手によって利用者に手渡されることが基本である。優れた選書による図書館が持続的に発展するためには、そこに働く図書館員の日常的な研鑽と市民のつながりが大事だと思う。</p>	<p>選書のために日常的な研鑽と利用状況の把握が必要ということについては同じ意見です。</p>
50	<p>取り組み17 関連・寄贈という方法をもっと広めてください。読み終えた本を寄贈すればその本は生き返る。・廃棄した本の市民利用をもっと進めてください。蔵書は量だけでなく質も問題。もっと蔵書の回転をよくできないか。・開架本の入れ替え。図書館相互でもっと入れ替えることはできないか。雑誌も館ごとに品揃えが違うが数年に1回変えてみるのも1案。</p>	<p>寄贈や廃棄本のリサイクルは、有効だと認識しています。また、本の入れ替えについては、運搬の面で大変ですが、ニーズとしては認識しており、今後の検討課題です。</p>
51	<p>都立図書館から借用した図書が返却していないことが判明した。該当本は家にもない。多摩市が何も対策をとらなければ再度発生する確率が非常に高い。文書で図書館長にも依頼しているが、希望する利用者には返却時において紙媒体での「返却した事実」を発行するよう検討されたい。</p>	<p>この計画とは別途対応します。</p>

52	<p>唐木田図書館が、窓口等の一部を外部委託していることについて、図書館協議会からも問題が指摘され、直営に戻すべきと意見表明がなされている。</p> <p>(2012年10月11日)多摩市の図書館運営全体にバランスを欠くこと、職員の蓄積される経験が多摩市全体の運営に生かされないことなど、読書活動振興の観点からみて問題であるとの意見がある。問題を孕んだ業務委託を早急にやめることもこの計画の中に盛り込んでください。</p>	<p>地域館の今後の存続・廃止・縮小等については、この計画では扱わず、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新の中で、引き続き検討します。窓口業務委託の見直しについても、多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムでの検討状況を見ながら、別途検討します。</p>
53	<p>多摩市の図書館行政が大きな成果を上げていることがよくわかった。落合6丁目に「やまぼと号」が停まるポイントがあった時から利用している。現在は7館体制になり、格段に利用しやすくなった。本を借りること、調べたいとき、家で購読していない新聞の記事のコピーなどでよく使わせていただいている。</p>	<p>役に立つ図書館であり続けるために、引き続き検討していきます。</p>
54	<p>「はじめに」や8ページ、巻末資料から多摩市の図書館利用状況がよくわかる。これは市内に7館という図書館に恵まれ、誰もが利用しやすい状況を反映している結果だと思う。これからも、1.だれもが使える図書館 2.子どもへのサービスの充実・・・多摩市民として全国に誇れる図書館をめざして行ってほしいと願うし、市民としてできることは進んで協力していきたい。</p>	
55	<p>課題解決型図書館への転換というのは、今までの資料提供と貸出を無料貸本屋的見解に迎合して図書館員でなくても、ボランティアでもよいなどと省力化し、合理化する論調に屈することになる。この実績をさらに拡張するために、ぜひ、有資格の職員を適切に配置してほしい。</p>	<p>貸出や予約などの資料提供サービスについても引き続き提供しながら、レファレンスなど課題解決にも役立つ機能を広げることが必要と考えます。充実に向けて、職員の配置や育成等についても、引き続き検討していきます。</p>

56	電子システムに関するセキュリティ等の検討の記載がない。業者に丸投げしているので、小さなシステムの改変に対応できない。市役所職員で全体的システムを理解している職員が皆無である。その結果ちいさな不具合もしくは改善の対応に5年も先送りする事態になる。本事項はすみやかに対応すべきである。	図書館システムについては、導入後10年を経過しており、途中で改修も加えましたが、更新について現在検討しているところです。この計画とは別に検討します。
57	運営上の課題について職員体制—有資格者の正職員をこれまで系統的に配置して育ててこられなかったために唐木田図書館の開館業務の委託もやむなし、とされてきたが、有資格正規職員の配置を計画的にし、必要人員は内外に公表し獲得していかなければ、今後全館が外部委託化される道が待っているという、極めて良くない方向が出てくるであろう。これでは市民のための図書館が望めなくなると考える。早急に対策を立てるべき課題ではないか。	職層ごとの役割の明確化や研修の充実に取り組み、職員の育成に努めます。